

学校の今に寄り添い、先生方とともに未来を描く

[ビューネクスト] 高校版

VIEWnext

2022 June

6

特集

生き生きと 働き続ける

指導変革の軌跡
福井県立坂井高校

発問・課題設定をキーに見る
主体的・対話的で深い学び 授業実践

国語

北海道遠軽高校

島田 亮

日本史

富山県立富山北部高校

嘉志摩 有希

Photo Session at Cover

兵庫県立
御影高校



プログラミングを
楽しんでもらうには？



小学生の目線に立って
大切なことを伝えたい！

未来を描く！ 創る！

イノベティブな
生徒たち

第7回

写真右下が佐々原さん、右上が丹野さん、左
上が菊地さん、左下が菅野さん。

自分を変える新たな機会に！ 小学生へのプログラミング教育に挑戦

地域貢献プログラミングチーム

菅野佑介^{かんの}さん / 菊地英裕^{えいすけ}さん / 佐々原優太^{ゆうた}さん / 丹野敦広^{あつひろ}さん

宮城県工業高校

2021年度卒業生 (2022年3月に取材)

高校で学んできたプログラミングを小学生に教える地域貢献
をしてみないか！

宮城県工業高校電気科の橋本正裕
先生が、3年生にそう呼びかけたの
は、2021年の夏季休業明け。興
味を持った8人の生徒が集まった。

生徒の1人、佐々原優太さんは、
本来は人と話すのが苦手。以前なら
躊躇したに違いないが、「自分を変
える機会にできれば」と、参加を決
意した。また、菅野佑介さんは、「地
域貢献」という言葉に、「これまで
自分が経験してこなかったことが、
経験できそう」と高揚感を抱いた。
8人の生徒は皆、半年後の卒業を前
に、もう一段自分を成長させたいと
考え、集まってきたのだ。

活動については、「近隣にある片
平丁小学校の5年生に向けて、11月
と12月に計3回、プログラミング教
室を開催する」ということは決まっ
ていたが、それ以上の具体的な内容
は、生徒たちが考えることになった。
「何より小学生が楽しめる授業に
したいと思いました。もし、『プロ
grammingってつまらないな』とい
うイメージを持たせてしまったら、

読者の先生方がご存じの「イノベティブな生徒たち」をご推薦ください！

ご推薦いただける場合は、右の二次元コードをスマートフォン等で読み取っていただき、フォームに沿ってご推薦内容をご入力ください。



イノベーションの芽を育てる

教師たち

異年齢の子どもに接する経験が
生徒たちを成長させる



宮城県工業高校
電気科科長補佐
橋本正裕

高校生にとって、小学5年生はかなり年齢の離れた存在です。そうした子どもを相手にプログラミングを教えるとなると、「小学5年生は、どんな活動を取り入れれば、喜んでくれるだろう?」というように、相手の目線に立って、一生懸命想像力を働かせることが不可欠です。

現在、中高連携は進んでいます。高校生が小学生に接する機会を増やすことも、生徒を成長させる上で大きな意味を持っていると、今回の活動を通じて強く感じました。

高校生が子どもたちの
ロールモデルになる



宮城県仙台市立
片平丁小学校
教諭
今野智道

高校生のおかげで、子どもたちは夢中になってプログラミング学習に取り組んでくれました。授業後も、「もっとプログラミングをやりたい」といった声が多く聞かれましたし、「自分もあんなすごいプログラムを組めるようになりたい」と言う子もいました。

小学5年生は、自分の将来に対する意識が芽生え始める時期です。子どもたちにとって高校生は、なりたい自分を探すためのロールモデルの役割も担ってくれました。

その後もプログラミングの勉強が苦痛になってしまいますから」と、丹野敦広さんは語る。

生徒たちは、活動のヒントをインターネットで探したところ、プログラミングをしたロボットでサッカーや相撲をする動画を見つけた。子どもはゲーム性があるものが大好き。「これは夢中になるぞ」と確信した。

「3回の授業のうち、1回目はロボットを走らせ、2回目はロボットを光らせたり、音を出したりする。そして3回目にロボットでサッカーと相撲をすれば、楽しみながら、段階的にプログラミングの理解を深められるのではないかと考えました」(菅野さん)

授

業では、佐々原さんが全体の進行を、ほかの生徒は各班のテーブルで子どもたちの支援を担うことにした。

「すごく緊張するだろうけど、片平丁小学校は僕の母校だったので、恩返しをしたいという気持ちもあり、手を挙げました」(佐々原さん)

準備を進める中で、生徒たちの心に響いたのが、「授業を行う時には、教えられる側の目線に立つことが大事だぞ」という橋本先生の助言だったと、菊地英裕さんは話す。

「確かに子どもへの理解度や、何を話せば興味を持ってくれるかを想像しながら、話の内容や使う言葉を考えないと、授業についていけない子

どもが出てきます。『先生は、いつもこんなことを意識しながら教えているんだ』と初めて気づきました」

片平丁小学校の今野智道先生と話す中で、小学生の目線に立った説明の仕方を学んだと言う。

そうした気づきが生きたのが、本番前のリハーサルだった。進行役を担う佐々原さんが話した内容に対して、ほかの生徒が「この部分はこういう言い方にした方が、子どもには分かりやすい」といったアドバイスを言うことで、みんなで授業の改善を重ねていったのだ。

そして迎えた授業本番。小学生たちは、生徒たちが予想していた以上に、目を輝かせながら授業に臨んでくれ

た。教えられる側の目線に立って授業を練り上げていった成果だった。

「入念に準備をしてきた甲斐がありました。自分のしたことが誰かに喜んでもらえるのは、すごくうれいことですね」(丹野さん)

自分を変える小さな一歩は、社会を変える一歩になる。生徒たちが校外で得た気づきは大きい。

学校プロフィール

設立 1913 (大正2)年

形態 全日制/機械科、電子機械科、電気科、インターネット科、化学工業科、情報技術科/共学

生徒数 1学年約320人

2021年度進路実績(現役のみ)

国公立大は、山形大、新潟大などに13人が合格
私立大は、東北工業大、仙台大などに延べ78人が合格。短大・専門学校進学46人。就職161人。

3

特集

働き続ける
生き生きと

- 巻頭 未来を描く！ 創る！
イノベティブな生徒たち
地域貢献プログラミングチーム
菅野佑介さん 菊地英裕さん
佐々原優太さん 丹野敦広さん
2021年度卒業生（2022年3月に取材）
宮城県工業高校
- 38 これからの進路指導のための
世の中トレンド解説
トレンド・ワード
人新世（ひとしんせい・じんしんせい）
- 60 Reader's VIEW

<https://view-next.benesse.jp/>

本誌記事は、ウェブサイトVIEWnext ONLINEでもご覧いただけます。

印刷製本／(株)協同プレス
編集協力／(有)ベンダコ
執筆協力／二宮 良太、長谷川 敦
撮影協力／荒川 潤、竹内 洋平、ヤマガチイキ

※本文中のプロフィールはすべて取材時のものです。また、敬称略とさせていただきます。 ※本誌記載の記事、写真の無断複写、複製及び転載を禁じます。
©Benesse Corporation 2022

23 For School Section

24 お勧めの分掌 ▶ 管理職 教務担当 進路担当

指導変革の軌跡

福井県立坂井高校

大学進学志望に応える学校改革

総合産業高校 # 総合型・学校推薦型選抜支援 # グランドデザイン策定

28 お勧めの分掌 ▶ 管理職 教務担当

— 疑問や課題を解決！ 実践につながる！ — 新課程レポート

テーマ 新課程の学習評価 3つの課題

ウェブセミナー

「学び続ける生徒の育成に向けて。新課程における教育実践と深化」第1回

主体的に学習に取り組む態度の評価 # 学習改善への活用 # 納得感のある評価

32 お勧めの分掌 ▶ 学年団 担任

輝く学年団を訪ねて

栃木県立大田原高校 2021年度3学年団

SSH 1期生 # 担任以外の教師との面談 # 課題は英語の学力向上

36 お勧めの分掌 ▶ 管理職

学校危機管理 基礎講座

テーマ 登下校中の事故

自転車通学 # 生徒を被害者にも加害者にもさせない # 自転車保険の加入

39 For Teacher Section

40 お勧めの分掌 ▶ 教務担当 担任

発問・課題設定をキーに見る 主体的・対話的で深い学び 授業実践

40 国語

北海道遠軽高校 島田 亮

寓意の読み取り # 学年共通の教材・評価基準 # 気づかせる工夫

44 日本史

富山県立富山北部高校 嘉志摩有希

過去や現在と比較して考える # 自分事にする問い # ICTを活用した振り返り

48 お勧めの分掌 ▶ 進路担当 学年団 担任

マイ・ストーリーを語れる生徒を育む進路指導

島根県・私立開星中学校・高校

3年次6月 受験意識・態勢の醸成

志望理由書の設計図 # 自律する生徒 # 200字の志望理由書 # 論文の活用

50 お勧めの分掌 ▶ 進路担当 学年団 担任

変化の激しい社会に飛び込む生徒に伴走 クローズアップ！ 就職指導

三重県立桑名北高校

望ましいマッチングに向けて 3年次7月・8月（求人票受け付け～校内選考）

就職観の揺さぶり # 短期間での仕事観の醸成 # 生徒・企業への聞き取り

52 お勧めの分掌 ▶ 学年団

チーム新課程学年主任

7月8月のポイント

探究学習と進路のつながり # 7月の面談テーマ # 新課程ウェブナーのお知らせ

生き生きと 働き続ける

文部科学省「令和3年度 教育委員会における学校の働き方改革のための取組状況調査」によると、コロナ禍の影響も考えられますが、時間外勤務が月45時間以下の高校教師の令和3年度の割合は、令和元年度と比較して約8～14%程度増加しました。教師の心身の健康に支障を及ぼす可能性のある長時間勤務の是正に向けた取り組みは進められていますが、各種調査(P.5 図2等)からも明らかのように、教師は長時間勤務以外にも多様な悩みを抱えています。中でも頑張っている教師ほど悩みを抱えがちであると、今号の特集を企画するにあたってお話を伺った先生方が口々におっしゃったことには、大変胸が痛みました。子どもたちの多様化や情報化の加速度的進展といった社会的変化に対応するために、新学習指導要領の実施やGIGAスクール構想などの新たな施策が進められる中、教師が取り組むべき課題は今後一層増えていくことが予想されます。そのような状況下でも、教師一人ひとりが悩みを抱え込まず、生き生きと働き続けられるようにするためには、何が必要なのか。その問いに向き合うことが本特集のテーマです。ぜひ、職場の先生とともに、ご一読ください。

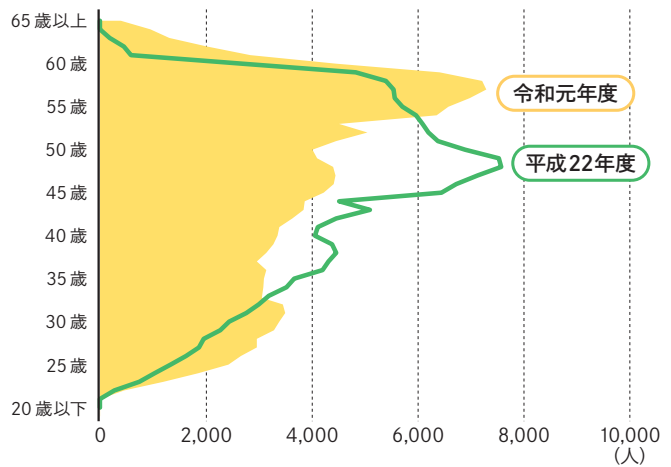
VIEWnext 編集部 統括責任者 柏木 崇

課題整理	高校教師の置かれている状況と仕事のやりがい・悩み	P.4
事例	CASE 1 テキストチャットツールを活用して、教師間の情報共有と人間関係構築を促進 福井県・私立福井南高校	P.6
	CASE 2 中堅教師と若手教師がペアになり、雑談を通して教育の知見を広げる 徳島県立城南高校	P.8
	CASE 3 ボトムアップ型の組織への転換と子ども目線での行事の精選を敢行 東京都・私立東一の江幼稚園	P.10
	ANOTHER APPROACH カリキュラム・マネジメントを通してつくられる持続可能な学校 育成を目指す資質・能力を焦点化し、教育活動の精選と教育力の向上を推進 静岡県立富士東高校	P.12
識者解説	ビジョンを共有し、互いを認め合いながら、持続可能な教師集団をつくる 京都教育大学 連合教職実践研究科 教授 片山紀子	P.16
本特集 テーマのnext	変化の激しい社会で「学び続ける教師」であるために 北海道・市立札幌藻岩高校 佐々木佑季 / 東京都・私立かえつ有明中・高校 佐藤あやか ノートルダム清心女子大学 非常勤講師、元岡山県立林野高校 校長 三浦隆志	P.20

高校教師の 置かれている状況と 仕事のやりがい・悩み

日々の教育活動の中で、生徒一人ひとりの成長に寄り添い、寄与できることは、教師という仕事の大きなやりがいだ。しかし、その成果はすぐに表れるとは限らない。また、各教科の専門性が高く、教師の年齢構成が二極化している高校現場では、安心・安全な職場環境や同僚性の面で問題を抱えている。ここでは、現場の声も踏まえながら、高校教師が生き生きと働き続けるために考えるべき課題を整理する。

図1 公立高校教師の年齢構成



※文部科学省「令和元年度学校教員統計調査」を基に編集部で作成。

おける働き方改革の推進は待ったなしの状況にある。

そうした、従来とは大きく異なる状況下では、これまでの経験や各教師が個人の方だけで対応するのには限界がある。年齢や立場などの違いを超えて、教師同士が力を合わせて新しい教育環境に向き合っていくことが求められていると言えよう。

しかしながら、現在の高校現場は教員年齢の高齢化を迎えており(図1)、ベテランの教師が一気に退職する時代が迫っている。加えて、ベテランの教師の数に比べ、ミドル層の教師の数が少なく、指導技術や学校文化の円滑な継承の面で課題を抱えている。ミドル層の教師には、若手にとって相談しやすい身近な存在であるとともに、若手とベテランをつなぐ役割が期待されるが、そのミドル層の教師の数が十分ではないことで、校内の教師間のコミュニケーションに支障が出たり、若手の視点を生かした学校運営が難しくなったりするなどの懸念もある。

実際、教師間の人間関係に悩み

大きく変化する学校現場で、同僚との関係に悩む教師

AIなどの先端技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れるSociety 5.0の到来、新型コロナウイルスの感染拡大など、近年の社会の状況やあり方は劇的に変化している。

先行きが不透明で、未来を予測することがますます困難な時代に

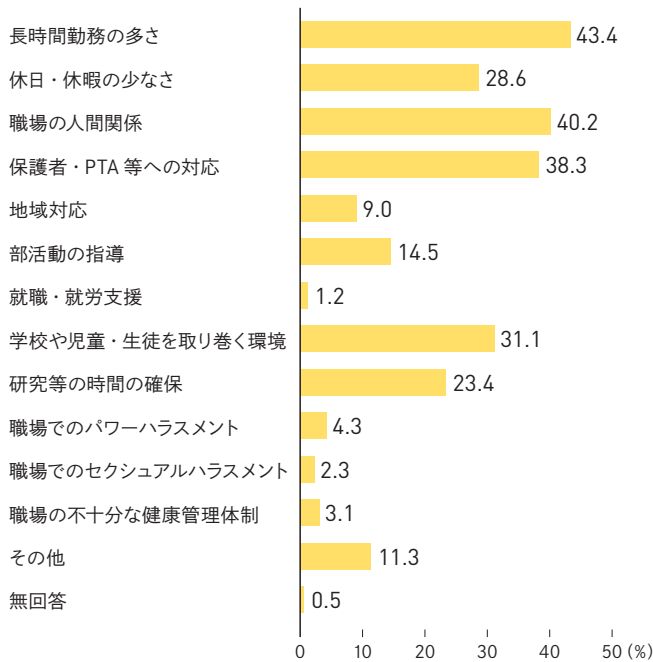
においても、様々な人とかかわりながら、自らの人生を切り拓く力を生徒に育むために、高校において

も、新しい時代に必要となる資質・能力の育成を目指した新学習指導要領が、2022年度から年次進行でスタートしている。また、新学習指導要領の実施にあたっては、「学校と社会が教育目標を共有し、連携・協働しながら資質・能力を育む、社会に開かれた教

育課程の実現」が、そして、GIGAスクール構想の前倒しによる「1人1台端末」の活用が求められている。

生徒を取り巻く環境が変化し、学校という場のあり方も変わる中で、新たな授業づくりに向けた取り組みなどが現場の教師には求められているが、その一方で、教師の業務負担の増大と長時間勤務が喫緊の課題となっており、各校に

図2 業務に関連したストレスや悩みの内容（教職員調査）



※厚生労働省「平成 30 年版過労死等防止対策白書」を基に編集部で作成。
 ※複数回答のため、内訳の合計が 100% を超える。

図3 高校教師の仕事のやりがいと悩み

高校教師が仕事のやりがいを感じる時

- 授業が、自分に必要な資質・能力を身につける重要な価値がある時間だと、生徒が実感していることを確認できた時。
- 授業中下を向いていた生徒が、むくっと顔を上げて興味津々な様子で授業を聞く瞬間。
- 試行錯誤しながら人生設計をしている生徒に伴走できていると感じた時。
- 何度も面談を繰り返し、様々な対策を練った上で、学校推薦型選抜や総合型選抜に申し、合格した時。一般選抜で、得意科目などを勘案して、生徒と一緒に練りに練った受験プランが功を奏した時。

高校教師の仕事の悩み

- ひと昔前に比べて、教師間のコミュニケーションが少なくなってきた。
- これまでのやり方に固執する同僚との関係性に困難を感じる時がある。年齢の上下関係も相まって、新しい教育のあり方に挑戦しようとする若手の姿勢を委縮させてしまっている。
- 業務内容が増加している中で、教師間の仕事量の均等化が十分に図られていない点や、一部の教師のみが学校改革に深く関与している状況が強まっている。
- 校内業務のICT化、そしてコロナ禍により、意思疎通を図る頻度や程度が後退し、互いの本音が見えにくくなっている。
- 生徒にとってプラスになる可能性がある教育活動でも、教師間で十分な議論ができず、実現してあげられないことがある。

出典／『VIEW next』高校版読者モニターへのアンケート結果（アンケートは、2022年4～5月にウェブとファクスで実施。回答数は69）

を抱えている教師は多く（図2）、『VIEW next』高校版の読者モニターに「仕事における悩み」を聞いたところ、「ひと昔前に比べて、教師間のコミュニケーションが少なくなってきた」「意思疎通を図る頻度や程度が後退し、互いの本音が見えにくくなっている」などといった、教師間の人間関係に関する悩みを挙げた教師が最も多かった（図3）。

生徒の変化を見取るには、教師同士つながりが不可欠
 教師という仕事のやりがいは、いつの時代においても大きなものであることに変わりはない。『VIEW next』高校版の読者モニターの声からも、教科指導や進路指導を通して生徒の成長に寄り添う喜びがひしひしと伝わってくる（図3）。
 だが、そうした喜びを教師に味

わわせてくれる生徒の成長や変化は、一朝一夕に表れるものではない。生徒は、教師の粘り強い働きかけに対して、ゆっくと、時にはらせん状に成長し、また、変化のきつかけも、生徒一人ひとりで異なるため、教師は生徒をつぶさに、そして、時間をかけて見取っていくことが求められる。だからこそ、一人ひとりの教師が孤立することなく、教師同士がつながりながら生徒に向き合うことが重要

になるが、そうした状態の実現を、新型コロナウイルスの感染拡大が難しくさせてしまっている。
 そこで本特集ではまず、社会環境の変化や多様な教育課題に向き合いながらも、やりがいを感じ、生き生きと働き続ける教師の姿を4事例紹介し、教師同士がつながりながら生徒に向き合うことができるようになる要因を探っていく。

テキストチャットツールを 活用して、 教師間の情報共有と 人間関係構築を促進

福井県・私立福井南高校

福井県・私立福井南高校は、2020年3月、若手教師の発案でテキストチャットツール「Google Chat」を教職員用に導入。オンライン上でコミュニケーションが活発になったことで、対面での会議のあり方や、ベテラン教師と若手・中堅教師の関係性がよりよく変化していったという。また、対面のコミュニケーションの場として夏季休業中などに開催される、教師と生徒の交流の場づくりの取り組みについても聞いた。

情報共有はチャットで行い、
会議では議論に時間を割く

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、職員室内での対話の機会が制限される中、福井県・私立福井南高校では、2020年、教師間での情報共有を目的として、テキストチャットツール「Google Chat」を導入した。オンライン上

でのコミュニケーションの機会の確保は、対面の会議の質を変えたと、浅井佑記ゆきのり先生は振り返る。

「コロナ禍以前から、学校で行われる会議は、その数が多いだけでなく、大半の時間が、資料に書かれている内容の確認に割かれ、議論や意思決定の場になりにくいと課題を感じていました。しかし、テキストチャットツールの導入

で、会議のあり方が大きく変わりました」

テキストチャットツールの導入を主導した情報科の浅井先生と高崎智裕先生は、管理職と相談した上で、議論が不要で了承を得るだけの事項は対面の会議では取り上げず、オンラインで決議することを校内に周知。会議の資料は事前にチャットに投稿して、対面の会議では資料を説明する時間を設けないようにした。

「対面の会議では、議論に時間を割けるようになりました。また、気になる生徒や活躍した生徒が話題に上る機会も増え、クラスや学年を超えた生徒理解が促進されています」（浅井先生）

対面の会議は考えを深める場だという共通認識が校内で浸透している今では、様々なチャットルームができ、会議資料の共有のほか、議論の前段階の意見交換もチャットで行われるようになった。そうした変化は、教科会や学年会にも表れており、いずれの対面の会議も内容が充実する一方で、会議そのものの時間は短縮されていると

進学支援担当

浅井佑記ゆきのり

教職歴9年。同校に赴任して10年目。地理歴史・公民科、情報科。



進学支援担当

高崎智裕

たかさき・ともひろ
教職歴5年。同校に赴任して6年目。数学科、情報科。



学校概要

設立 1995（平成7）年
形態 定時制／総合学科／共学
生徒数 1学年約80人
2022年度入試合格実績（現役のみ）4年
制大は、福井県立大、明海大、中央大、仁愛大、福井工業大、日本福祉大、京都産業大、京大女子大、京都橘大、立命館大、龍谷大、近畿大などに延べ24人が合格。

いう。

テキストチャットツールの便利さを実感した教師が、様々な用途でチャットルームを自主的に展開するようになった。

「探究学習について情報交換をする先生もいれば、大学説明会の出席者の割りあてを行う先生もいます。情報共有だけでなく、若手の先生がベテランの先生に悩みを相談するケースも少なくありません。職員室と違って、生徒やほか

の先生が不意に入ってくることはありませんから、何でも話せる安心感があり、相談もしやすいでしょう。ベテランの先生も、チャットは対面と異なり、熟考して丁寧に返信ができるので、相談に乗りやすいようです」（浅井先生）

チャットでの相談のしやすさがベテランと若手の距離を縮めた

テキストチャットツールの校内への浸透と、そこでのコミュニケーションの活性化について、浅井先生は、「若手の先生がベテランの先生にどんどん相談していったことが、学校全体を巻き込むことにつながった」と振り返る。

「経験豊かな先生は、ICTで他者とつながらなくても困ることはないかもしれない。そうであったとしても、悩みが多い若手の先生が率先してICTを使い、その中で様々な悩みを相談されたベテランの先生は、若手の考えを理解しながらICTツールのよさを肌で実感し、自分も使ってみようという気持ちになっていったの

だと思っています」

教師間の情報共有やコミュニケーションのツールとして活用が始まったテキストチャットツールだが、今では、テキストチャットツールを使う中でICTに興味を持ったベテラン教師が、自らICTについて勉強し、自身の豊富な授業実践の経験と結びつけながら、授業でのICT活用についてのアイデアを若手に教えるといった、新たな動きも見られている。

だが、想定外の課題も見えてき

たという。

「テキストチャットツールによって教師間のコミュニケーションが活発になり、教育活動や校務がスムーズに進むようになったことが、前例踏襲を助長してしまっているのかもしれない気がつきました。同僚性を高めることで、職員室は安心・安全な場になりましたが、共通認識が図られる事柄が多くなる分、新たな価値創造につながりにくくなる危険性があると思っています」（浅井先生）

COLUMN

生徒、教師が知的な自由時間を楽しむ「校内カフェ」をオープン

2019年、数学科担当の高崎先生が、夏季休業中の補習期間の生徒の居場所として提案したのが「Mathカフェ」だ。数学など、自然科学を中心とした教師のお勧めの書籍を並べ、生徒が読書したり、自習したり、あるいは雑談を楽しんだりする場として開放した。中には、「Mathカフェに來たいから、補習は休まず行く」といった生徒もいるという。

当初、生徒のための居場所として考えた「Mathカフェ」だが、教科を超えた教師同士のつながりの場にもなっている。

「生徒の様子を見るために、多くの先生が足を運ぶうちに、他教科の先生もお勧めの書籍を紹介したり、担当の教科に関連するゲームを実施したりするようになりました。先生方にとって、職員室とは違う、もう1つの居場所になったようで、生徒と、そして先生同士で、おしゃべりを楽しんでいます。生徒のことを理解する場としてはもちろん、英語科の先生との雑談の中で数学の教材研究のヒントをもらうなど、先生方とのコミュニケーションの中で自分の指導を見直す場にもなっています」（高崎先生）



2020年冬季休業中の「Mathカフェ」の様子。

読者の先生方へ！ ワンポイントアドバイス

テキストチャットツールの導入にあたって、**管理職から、「使える人から使い始めるのではなく、全員ができることから始めてください」と言われました。**そのため、チャットのテーマは、全員が参加することができるものから始め、使い方に慣れてから、テーマを増やしていきました。ICTの活用は、教師にとって、校務の負担の軽減やコミュニケーションの活性化の可能性を秘めています。みんなができることから始めて、**教師間に経験の差を生まない配慮が大切だ**と思います。（浅井先生）

浅井先生は、教師にとっての価値創造のモチベーションは生徒との対話にあると考えている。

「高崎先生が主催する『Mathカフェ』（COLUMN参照）や、探究学習を始めとする場で生徒と向き合うことで、学校にはどのような新しい価値の創造が求められているのかが見えてくるでしょうし、その時にこそ、教師の同僚性が真に力を発揮するはずですよ」

中堅教師と 若手教師がペアになり、 雑談を通して 教育の知見を広げる

徳島県立城南高校

徳島県では、先輩教師（メンター）と後輩教師（メンティー）がチームを組み、研修や個別支援を行う「メンター制度」の実施を、県内の学校に推奨している。同制度には、若手教師の資質・能力の向上や精神的孤立の防止、ロールモデルとの出会い、そして、中堅教師のミドルリーダーとしての成長などのねらいがある。2021年度、メンター制度を実際に体験した徳島県立城南高校の2人の教師に話を聞いた。

1年間、毎朝欠かさず
雑談をしながら教室へ

徳島県立城南高校の保健体育科の中本浩平先生は、2021年度、教職10年目研修に参加したことがきっかけとなり、「メンター制度」を実施することになった。同年度に1学年担任を務めた中本先生がメンティーにと声をかけたのは、

隣のクラスの担任で、当時教職5年目の板谷和輝先生だった。

徳島県が実施するメンター制度では、先輩と後輩がどのようなことに取り組むのかは、自分たちで決めることになっている。当初2人は、学校行事の運営をメンター制度を取り入れながら行う予定だったが、コロナ禍で行事の中止や延期が相次ぎ、思うようにいか

なかった。そこで2人が話し合っ
て決めたのは、「毎朝、職員室か
ら受け持ちのクラスがある4階ま
で、一緒に行くこと」だった。

「私は保健体育科で、板谷先生
は英語科と、担当教科が異なりま
す。そのような2人にとって有意
義なことは、改まって1つのテー
マについて議論をすることなど
はなく、毎日、短時間でもよい
から雑談をして、コミュニケーション
を取ることでと考えました」（中
本先生）

「中本先生とは同じ学年団です
から、行事などについても話しま
したが、学校とは関係のないこと
もたくさん話しました。例えば、
私は子どもが生まれたばかりだっ
たので、仕事と育児の両立の大変
さを聞いてもらったり、中本先生
の経験を聞かせてもらったりした
こともあります。私生活の悩みや
仕事での弱音など、職員室ではあ
まり話題にしないことを話すこと
ができたのは、とてもありがた
かったです」（板谷先生）

2人は1年間、毎朝欠かさず雑
談をしながら階段を上った。



2学年担任
板谷和輝
いただに・かずき
教職歴5年。同校に赴任し
て3年目。英語科。



1学年学年付
中本浩平
なかもと・こうへい
教職歴10年。同校に赴任し
て4年目。保健体育科。

学校概要

設立 1875（明治8）年
形態 全日制／普通科・応用数理科／共学
生徒数 1学年約310人
2022年度入試合格実績（現浪計） 国公立大は、名古屋大、神戸大、岡山大、広島大、徳島大、鳴門教育大、香川大、九州大などに144人が合格。私立大は、慶應義塾大、東京理科大、早稲田大、同志社大、立命館大、関西大、近畿大、関西学院大などに延べ392人が合格。

「メンター制度として始めた取
り組みでしたが、私にとっては中
本先生との心地よいコミュニケー
ションの機会でしたし、だからこ
そ続けられたのだと思います。毎
朝の雑談は本当に楽しくて、たと
え自分が先に教室に行く準備がで
きたとしても、職員室で中本先生
の準備が終わるのを待っていました
」（板谷先生）

毎朝の雑談を土台に関係性が深
まるにつれて、中本先生と板谷先

生は、クラスを超えた支援をし合うようになった。

「中本先生から、『板谷先生のクラスの〇〇さんが、昨日の授業でリーダーシップを発揮していたよ』などと、私が気づいていない生徒の長所を教えてもらい、それを踏まえて翌日以降の生徒への声かけを見直したこともありました。自分とは異なる視点での気づきを共有してもらったことで、生徒理解が深まりました」（板谷先生）

メンター制度は、中本先生にとっても学びの機会となった。

「教壇に立つ時、教師は1人で40人の生徒と向き合います。孤独を感じることもありますし、『教師としての自分のあり方はこれだよいのだろうか』と考えてしまうこともあります。板谷先生は、生徒と同じ目線で、生徒の心に響くように話をするができる先生なので、生徒との距離の取り方は、私にとっても勉強になりました。また、板谷先生との関係を通して、今後、ほかの若手の先生たちと接する時も、その先生の個性やペーシングを理解し、尊重するなど、どの

ように接していくとよいのが見えてきたように思います」（中本先生）

担当教科やタイプが異なる同僚に多くの気づきをもたらした

21年度の3学期の全校球技大会が中止となった時に、「生徒が仲間や先生と一体感を味わえる機会をつくってあげたい」と、中本先生と板谷先生は、学年独自のクイズ大会の企画を立案した。

「ICTと校内放送を使って、物理的な距離を保ちながら、教師と生徒や生徒間の心の距離を近づける企画を考えました。中本先生と毎朝コミュニケーションを取る中で、一体感を味わえる行事が生徒たちには必要であるといった共通の認識を持つことができたのです」（板谷先生）

毎朝のとりとめの短い短時間の雑談が、なぜ、生徒理解の深化や新しい活動への意欲につながったのか。2人は、担当する教科、そして教師としてのタイプが違ったからこそ、気軽な内容の会話が多くなり、それが奏功したのだろう

と考えている。

「同じ保健体育科の先生との会話の方が、授業改善の具体的な方法など、自分の教育活動に直結する話題が多いでしょう。しかし、英語科の板谷先生と話す中で、海外留学など、なかなか学ぶ機会がなかったテーマについて知見を得ることができました。想定していなかった形で、教師としての幅が広がった気がします」（中本先生）

「中本先生は、生徒を引き縮める時の声かけなど、私が不得意な部分が上手です。中本先生が自分と違うタイプのメンターだったからこそ、朝の雑談の中で学べたことが多くあったのだと思います。ただ、1番のポイントは、2人とも、『何かを教えよう』『何かを得よう』などと気負っていないかったことだと思います。私は中本先生に、自分の話を聞いてもらいたかったし、中本先生の話を聞きたかった、それだけです。雑談だったからこそ、様々な視点での気づきを得られたのだと思います。研究授業などはまた違った、楽しい学びの場でした」（板谷先生）

毎朝、2人で雑談をしながら上った教室までの階段。わずかな時間だったが、様々な気づきを2人にもたらした。



読者の先生方へ! ワンポイントアドバイス

私と中本先生との取り組みは、毎日の放課後に改まって行う10分間の面談などではなく、教室に行く時間を使うだけでしたから、負担感はありませんでした。毎日だけど、無理がなかったから楽しく続けられたのだでしょう。ただ、毎朝の雑談は、自分にはプラスでしたが、朝は授業準備など、自分の時間に使いたいと考える先生もいるはず。悩みを気軽に相談できる場は大切ですが、どのような場が合うかは人それぞれなので、そうした場は複数パターンの選択肢があった方がよいと思います。（板谷先生）

ボトムアップ型の 組織への転換と 子ども目線での 行事の精選を敢行

東京都・私立東一の江幼稚園

幼稚園教諭や保育教諭は、「子どものために」と思う
があまり働きすぎて、心身に支障をきたしてしまうこ
ともあり、それが人材が定着しない一因となっている。
学校種は異なるが、高校教師も同様の課題を抱えてい
ると言えるだろう。そうした状況を改善するには、ボ
トムアップ型の組織であることや増えすぎた行事の見
直しが必要と考え、園内改革を進めていった東一の江
幼稚園の園長とミドルリーダーの教諭に話を聞いた。

その中で田澤園長が繰り返して口にしたのが、「失敗しても大丈夫」という言葉だった。

「幼児教育における学びは、子どもの日々の遊びの中に生まれま
すが、遊びも学びも保育者の思い通りにいかないことが多く、失敗の連続です。失敗したら、『次はどうしようか』と、保育者も子どもと一緒に考えればよいのです。主体的な活動には、試行錯誤はつきものです。子どもの試行錯誤を認める保育者を目指すのならば、保育者同士でも試行錯誤を認め合おうと話しました」（田澤園長）

年中組学年主任の小林彩加先生は、田澤園長から、何度も「失敗してもいい」と言われたと語る。

「さらに、周りの先生たちからも、『失敗するのはあたり前だよ』『周りを頼ればいいから』と言われてきました。それによって不安がなくなり、仕事を楽しめるようになりました」

また、田澤園長は、「困った時は『助けて』と言える保育者になってほしい」と語る。

「うまく説明できなくてもいい



園長
田澤里喜
たざわ・さとき
教職歴26年。同園に赴任して27年目。



年中組学年主任
小林彩加
こばやし・あやか
教職歴6年。同園に赴任して7年目。

園概要

設立 1966（昭和41）年
園児数 1学年約75人

から、『大変です』と言ってほしいと思っています。何がどう大変かを解きほぐすのが、先輩保育者の役割ですから」

行事を精選したことで、 話題の中心が子どもになった

田澤園長は改革の1つとして、行事の精選にも取り組んだ。

「それぞれの行事の目的やねらいを保育者と確認し、現場の負担感も勘案して、『保護者も楽しみをしているから』といった、子どもを主語にした目的やねらいではない行事は、見直したり、廃止したりしました」

「失敗しても大丈夫」と、 園長が言い続ける

田澤里喜園長が進めてきた園内改革の1つが、トップダウン型からボトムアップ型の組織への転換だ。トップからの指示が多いと、保育者が受け身になり、やりがいを十分に感じられなくなると考えたからだ。田澤園長は、年少、年

中、年長それぞれに学年主任を配置し、全学年を俯瞰的に見る統括主任と副園長を置いた。そして、園長からは、幼児教育の理念や考え方に関することは発信するが、日々の保育における細かな指示を出すことは控えるようにした。

学年主任を中心に現場を任せただけで、保育者たちは徐々に自分たちで考え、動くようになった。

COLUMN

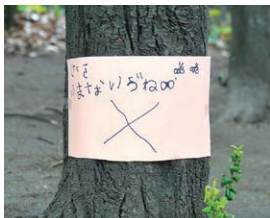
日々の教育活動の工夫を褒めることで、
管理職と現場の関係が豊かに

田澤園長が心がけているのは、できるだけ保育室を回り、子どもと保育者のよい関係を見ることだ。カメラを手に園内を歩き、心を動かされた子どもの表情や保育者の支援の瞬間を写真に収めて、後日、園内で紹介することで、園として大切にしたい保育観の共有につなげることも多い。

「素敵だなと思った場面を撮影し、後でその場面に関係する先生を、『保育室のあの掲示、わくわくするね』などと褒めるようにしています。そうしたことを続けたところ、最近、保育者から、『園長、うれしいです。褒めるのが上手になりましたよ』と、逆に私が褒められました」（田澤園長）

「園長に褒められると、小さな工夫に気づいてくれたんだと、うれしい気持ちになりますし、自分から園長に、『こんな工夫をしてみました、どう思いますか?』と話しかけたくなるのです」（小林先生）

種を埋めた場所を踏まないようにと、5歳児が書いた看板。文字を正しく書いているかどうかよりも、「文字で示して思いを伝えたい」という欲求から生まれた行為に価値があるということを保育者に伝えようと、田澤園長が写真に収め、共有した。



「園での子どもの遊びは、『昨日の続きをやるよ』といった、連続性のあるものです。しかし、行事が多すぎると、遊びの中の学びの連続性を断ち切ってしまう恐れがあります。日々の遊びの中の学びを大切にするためにも、行事を精選したいと考えました」

行事が多いと、こなすことに精いっぱいになり、保育者がやりがいを感じにくくなるという懸念もあつたが、行事が少なくなつたことで、保育者の日々の会話の中身が変わつたという。

「行事が多かつた時は、先生たちは行事の運営についての話ばかりをしていました。しかし、行事が精選され、余裕が生まれると、子どもの様子をよく話すようになったのです。そして、目の前の子どもが何に興味を持っているの

か、どのような支援を行えば学びが深まるのかを、丁寧に話し合うようになりました」（小林先生）

行事の見直しは今も続く。

「以前、後輩の保育者が私に、『年度末の活動発表会では、なぜ、子どもたちにスポットライトをあてるのですか?』と尋ねてきました。確かに、普段の活動を発表させることがねらいなのであれば、わざわざ普段とは違う場をつくり、子どもを緊張させる必要はありませんから、翌年からは改めることになりました。些細なことですが、子どものためになつていのかを考えれば、まだまだ行事の見直しはできるはずですよ」（小林先生）

教育の現場は、過去の「この活動はよかつた」といった成功体験が積み重なりすぎてしまい、肥大しがちだ。だからこそ、若い保育者の素朴な疑問を吸い上げ、みんな考えていくことで、組織が強くなっていくと田澤園長は語る。

「子どもたちにとってよりよい教育を、先生方が無理のない形で実践していくためには、管理職が現場の声に真摯に耳を傾けること

が大切です。それも、『改善すべき点は?』などと改まって聞くのではなく、保育者がその時に話したい言葉に耳を澄ますのです。本園では学期に1回、保育者と私が面談をしますが、私はいつも、『最近、どうですか?』とだけ聞いています。どの保育者もいろいろなことを話してくれますし、その中で私も、たくさん気づきをもたらしています」

読者の先生方へ! ワンポイントアドバイス

子どもにはできるだけことをしてあげたいのですが、常に100点を目指しては持続可能なものになりません。とは言え、杓子定規に「定時だから帰いなさい」などと言つては、保育者のやりがいを損ねてしまいますので、**子どものために頑張る保育者を応援する一方で、時には「そのこだわりは必要?」などと肩の力を抜くような声かけをしています。**「省いても子どもに同じ効果を与えられる部分はどこか」と知恵を絞れば、新しいアイデアも生まれてくるはずですよ。（田澤園長）

カリキュラム・マネジメントを通してつくられる 持続可能な学校

今、学校現場は、育成を目指す資質・能力を踏まえた、各教科や分掌、学年等の連携による教育課程の編成・実施・改善の営みとして、「カリキュラム・マネジメント（以下、カリマネ）」に取り組んでいる。カリマネの推進によって、生徒の学びや教師の指導はそれまでと大きく変わっていくが、そうした変化と同時に、教師が一層生き生きと働くようになることで、次代の学校に欠かせない「持続可能性」も高まっていくことが期待できる。

育成を目指す資質・能力を焦点化し、 教育活動の精選と教育力の向上を推進

静岡県立富士東高校

静岡県立富士東高校では、生徒が予測不可能な社会に対応し、自らの将来のビジョンを描くことができるよう、「総合的な探究の時間」を軸にした教育活動の精選や改善を進めている。その過程において同校は、生徒に時間を返しながら、教師一人ひとりが「教職生涯を通じて学び続けられる」、新しい学校へと変貌を果たしつつある。

「総合的な探究の時間」を軸に、 グランドデザインを具現化

2021年度から、「総合的な

探究の時間」を自校の特色化・魅力化の中核に据えた学校改革に取り組む、静岡県立富士東高校。急速に変化する予測不可能な社会に対応し、自らの将来のビジョンを描くことができる資質・能力を生徒に育みたいという同校の教師たちの思いは、改革を推進する原動力としては十分だった。一方で現場は、学級減に伴う教員定数減という切実な問題も抱えていたと、清水俊幸校長は振り返る。

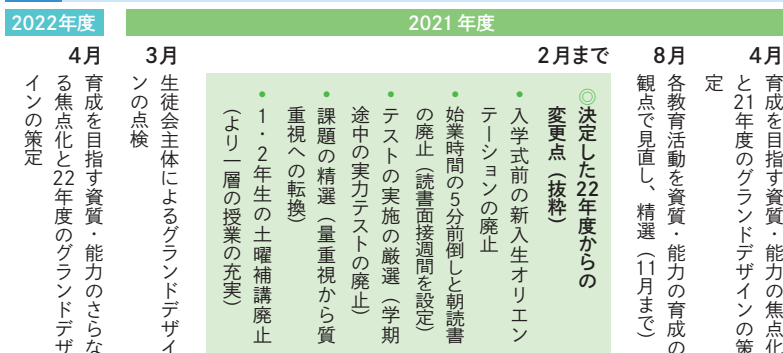
「だからこそ、本校が果たすべきミッションをしっかりと見据

え、アクセルを思い切り踏むべきところと緩めるところを整理する必要があると考え、教育活動の精選に着手しました(図1)」

改革のよりどころとしたのはグランドデザイン(※)だ。21年度のグランドデザインでは、育成を目指す資質・能力の中でも、特に思考力と主体性の育成を重視する方針を打ち出していた。しかし、グランドデザインの具現化の軸として力を入れようと掲げた「総合的な探究の時間」を、教師たちが負担に感じている実態があったと、21年度の「総合的な探究の時間」の推進リーダーを務めた進路指導主事の杉山由紀先生は明かす。

「3年前に本校に赴任した時、

図1 富士東高校における教育活動の精選の流れ



※学校資料を基に編集部で作成。

* グランドデザインは、ウェブサイト『VIEW next ONLINE』(https://view-next.benesse.jp/) からダウンロードできます。「TOP→学校教育情報誌『VIEW next』→高校向けバックナンバー」をご覧ください。

先生方も生徒も疲れているように感じました。先生方は、『生徒のために』と一生懸命なのですが、課題や補講、校内テストが多く、カリマネの軸となるはずの『総合的な探究の時間』に十分に手をか



校長
清水俊幸
しみず・としゆき
教職歴35年。同校に赴任して2年目。



副校長
伊藤直美
いとう・なおみ
教職歴31年。同校に赴任して2年目。



進路指導主事、**2学年副担任**
杉山由紀
すぎやま・ゆき
教職歴22年。同校に赴任して3年目。国語科。



教務課（授業研究推進リーダー）、**2学年担任**
渡邊潤
わたなべ・じゆん
教職歴16年。同校に赴任して2年目。数学科。

学校概要

設立 1978（昭和53）年
形態 全日制／普通科／共学
生徒数 1学年約210人
2022年度入試合格実績（現役のみ） 国立大は、信州大、静岡大、愛知教育大、奈良女子大、九州大、静岡県立大などに57人が合格。私立大は、青山学院大、中央大、法政大、明治大、立教大、関西大などに延べ563人が合格。

**富士東高校のカリマネが
安心・安全な場づくりに結びついたポイント**

1 育成を目指す

資質・能力を焦点化する

21年度のグランドデザインの策定にあたって、育成を目指す資質・能力を焦点化。特に、思考力と主体性の育成に重点を置き、「総合的な探究の時間」を軸に、授業や学校行事の充実を図ることにした。

2 生徒と教師の現状に

合わせた手立てを講ずる

補講や定期考査以外のテストへの対応に、生徒、教師が追われてしまい、教育活動の軸となるべき「総合的な探究の時間」を負担に感じる状況になっていた。すべての教育活動を資質・能力の育成の観点で見直し、精選を進めた。

3 学び続ける教師を支援する

仕組みをつくる

カリマネの推進においては、教師自身が学び続け、教育活動の改善を継続していくことが欠かせない。「総合的な探究の時間」の進捗状況、個々の授業改善、そして、先進校の指導事例などについて共有する教師向けの学校便りの発行や、教職員用談話スペースの確保を行った。

※学校資料を基に編集部で作成。

けられていない状態でした」
21年度に入ると、杉山先生を始めとする6人の教師は、持続可能な「総合的な探究の時間」のあり方を模索して、積極的に他校視察を行った。視察報告を聞いた多くの教師から、「生徒に時間を返すことが必要だ」といった声が上がったと、伊藤直美副校長は語る。
「生徒が主体性を発揮しながら、思考を巡らす探究学習を、生徒はもちろん、教師も楽しんでいる事

例を杉山先生たちから聞く中で、『総合的な探究の時間』に生徒がのめり込めるようにするために、生徒にも教師にも、もっと時間が必要であり、課題や補講、校内テストの精選は避けては通れないという機運が高まっていきまし

うに思います」
また、コロナ禍での臨時休業の経験を通じて、学力向上の鍵を握るのは、授業のコマ数ではなく、授業を通じて育成を目指す生徒の姿の明確化と、適切な授業設計であると、同校の教師たちは理解していた。

**土曜補講や一律の課題を廃止
「生徒に時間を返す」**

「総合的な探究の時間」を軸にした特色化・魅力化のアクセルを強く踏むため、教育活動の精選に全教師で取り組んだ。

「21年度8月、すべての教育活動について、グランドデザインで掲げた資質・能力の育成に寄与する活動かどうか、全教師で点検を行いました（P.14図2）。設定した基準点に満たないものを洗い出し、9月以降は廃止や縮小、または大幅改善に向けた検討を開始しました」（伊藤副校長）

そうして、22年度からの1・2年生の土曜補講と学期途中の実力テストの廃止、そして、課題の精

図2 育成を目指す資質・能力の観点からの各教育活動の点検

担当	時期(月)	各教育活動	対象				グランドデザインに掲げた「育成を目指す資質・能力」との関係															
			1年	2年	3年	職員	中学生・保護者	主体性	思考力	情報収集能力	自己管理能力	コミュニケーション能力	表現力	分析力	自己実現能力	実践力	人間関係形成力	チャレンジ精神	社会参画意識	論理性	合計	
教務	4	新入生オリエンテーション																				
総務	4	避難訓練																				
教務	4	初期指導																				
生徒	4	対面式 部紹介等																				

「育成できる」を1点、「特に育成できる」を2点と点数化し、全教師の点数の合計を一覧化

※学校資料を基に編集部で作成。

選などの方針が固まった。同時に、「総合的な探究の時間」そのものにおいても、1・2学年団の教師全員が、教科を超えて生徒の伴走役となるなど、教師一人ひとりの負担を軽減しながら、教師自身も探究学習を楽しめるような体制を構築していった。

土曜補講を廃止し、課題の精選を進めるとともに、生徒が自ら自分に必要な学習を考え、主体的に学習に取り組むような仕組みづくりに取り組んだと、教務課の渡邊潤先生は説明する。

「全員一律に取り組む課題を減らした分、プラスαの位置づけの課題を複数準備して、自分に必要だと思った課題を生徒が選んで取り組めるようにしました。また、校内実力テストの過去の良問などを印刷して、空き教室に置くようにしたところ、多くの生徒が週末課題として持ち帰っていました」

また、教育活動の精選のための議論を通じて、「日々の生徒の様子をじっくりと見取る時間をもっと必要だ」といった新たな提案もあった。そこで、毎日始業時に行っ

ていた朝の職員会議を月曜日以外は廃止。担任がすぐに教室に行けるようにした。

「廃止や削減ばかりではなく、新たに生まれた活動もあります。例えば、多くの行事がコロナ禍で中止になったからこそ、生徒同士が交流できる場が必要だと、保健体育科の先生方が提案した球技大会には、多くの先生方が賛成し、実現しました」(杉山先生)

毎朝5分間の朝読書を廃止する代わりに、4月に読書面接週間を新たに設けた。30分間の読書時間中、担任が別の教室で個人面談を行ったが、多忙な4月に生徒把握の時間が確保されたことは教師たちにとっても好評だという。同週間は秋、冬と、年3回実施することになっている。

学び続ける教師集団を目指し、校内研修を拡充

校内研修については、さらなる拡充の方針を打ち出した。学校として育成を目指す資質・能力を常に意識しながら、生徒の

あらゆる学びを全方位的に支える教師集団へと成長を図るために、学校改革と並行して、「教職生涯を通じて学び続ける」をスローガンに、研修を活発に実施している。21年度は、「指導と評価」についての校内研修を6回実施。22年度からは、校内推進体制を整え、「探究推進リーダー」に加えて、新たに「授業研究推進リーダー」を配置し、学校の中核にあたる中堅教師がその役割を担うことになった。

「校内研修は、ややもするとトップダウンの情報提供になりがちで、参加する私たちも受け身になってしまっているところがありました。教師同士が日々の授業を土台に、公開授業や相互参観などを通して授業研究を進め、指導と評価をテーマにした対話型の研修を実施することで、同僚性を高めながら授業改善を図っていきたくと考えています」(授業研究推進リーダー・渡邊先生)

21年度の研修について、渡邊先生は、「教科の枠を超えて、先生方が研修の後もずっと話し込んでいた」と振り返る。自分たちの日々

図3 教師向けの学校便り「しのめだより」



※学校資料をそのまま掲載。

の実践を題材にしたことで、ベテラン教師と若手教師が自校の生徒の姿を念頭に闊達に語り合うことができたという。そして、授業でのICTの活用などについて、ベテラン教師が若手教師に意見を求める場面も多く見られた。

21年度の他校視察の報告の際には、他校の取り組みを自校の生徒に落とし込んで語り合うことを大切にしていたと杉山先生は語る。

「全体に向けての報告の場だけでなく、職員室での雑談の中でも、視察を通じて自分が感じたことを、先生方に率直に話すように心がけました。他校の実践について、視察してきた私たちが、『こういうところがよかった』『本校もこうすべきだ』といった調子で紹介し続けると、聞いている先生方は、『本校とは教師の人数が違うから』『あの学校は特別な予算があるから』などと言って、受け入れたくない気持ちになってしまおうと思います。しかし、雑談の中で、『あれは大変だよ』などとは、『でも、やった方がよい』とは思って、『でも、やった方がよい』などと思っただけで、全員が少しづつ、『何とかしよう』といった気持ちになっていったの

でしょう。フォーマルな場だけではなく、雑談の中でも正直な思いを語り合ったことは、とても重要だったと思います」

校内の実践を共有し、安心して挑戦できる風土に

学校を教師が学び続ける場とするためには、校内での教師間のコミュニケーションが極めて重要だが、コロナ禍の中では、教師同士が語り合う機会の十分な確保は困難だ。そこで同校では、伊藤副校長が中心となって、教師向けの学校便り「しのめだより」を発刊している(図3)。各学年の探究

学習の進捗状況や各教師の授業改善の取り組みを見える化し、校内の情報として共有することで、若手を始めとする全教師の目線を合わせたのと考えたのだ。「しのめだより」では、伊藤副校長が他校とのつながりの中で得た先進的な取り組み事例なども紹介している。

「伊藤副校長が自ら本校の取り組みを取材して記事にしており、

様々な実践を知るためのツールになっています。そして、伊藤副校長の視点を借りて授業実践を読み解くことから得られる学びは多く、学校全体の方針を具体的な授業と結びつけながら理解することができています」(渡邊先生)

2年目に入った改革について、清水校長は、「成果を検証していくのはこれから」と断った上で、「先生方の表情は確かに明るくなっている」と語る。

「今までは、多くの教育活動をこなすことで精いっぱいだったけれども、今は一人ひとりの先生方が、自分のアイデアを出しながら、それぞれの強みを発揮してくれていると感じます。仕事量は大きく減ったわけではありませんが、仕事の内容や質が変わったことで、先生方の心持ちも変わり、負担感が減ったのだと思います。それにより、持続可能性が高まったのではないのでしょうか。学校が、次代を生きる力を生徒に育む場であるのならば、そこで働く先生方が主体的に働けるように、さらに改革を進めていきたいと考えています」

ビジョンを共有し、 互いを認め合いながら、 持続可能な 教師集団をつくる

京都教育大学 連合教職実践研究科 教授
片山紀子

前ページまでの4つの事例から、教師間における豊かなコミュニケーションを通じた安心・安全な人間関係の構築や、教師が日々の業務の負担を軽減しながら、生徒たちと向き合う時間を確保するための教育活動の精選が、持続可能な教師・学校であるために必要な要素であることが見て取れた。では、そうした要素を実現するにはどのような考え方や方法が求められるのだろうか。学校における「チームづくり」の支援に取り組む、京都教育大学の片山紀子教授に聞いた。



かたやま・のりこ

京都教育大学 連合教職実践研究科 生徒指導力高度化コース 教授。編著書に、『職員室をつくる承認の科学—学校を働きがいのある職場にするためのヒント』（ジダイ社）、『やっつるつもりチーム学校—協働が苦手な先生たちも動き出す校内連携のヒント』（学事出版）などがある。

や保護者、同僚から「先生」と言われます。そして、本人も周囲も、「先生だからできてあたり前」と考えるようになり、疑問や悩みがあっても周りに相談せず、1人で抱え込んでしまうようになりがちです。

少し古い調査ですが、平成25年3月の文部科学省「教職員のメンタルヘルス対策検討会議」の最終まとめによると、「仕事や職業生活におけるストレスを相談できる者の有無」に対する回答で、相談できる人がいると答えたのは、一般企業の労働者が89・0%だったのに対して、教職員は45・9%でした。若手教師は、「分からないことや困ったことがあっても自分で頑張ろう」、ベテラン教師は、「自分には自分のやり方があるのだから、このままでよい」といった思考になりがちです。しかし、それはどちらも孤立している状態と言えます。

コロナ禍によって授業や学校行事のあり方が変わり、1人1台端末の整備や、新学習指導要領の実施など、学校現場は今、大きな変

教師が孤立することなく
変化に対峙できる職員室に

教師は、子どもたちの成長を支援する、やりがいがとても大きな職業です。しかし、そのやりがいの大きさは、時として、教師にマイナスに作用することもあります。子どものことを大切に考えるあまりに、限界を超えるほど頑張ってしまうのです。それは、生

徒がかかわる事象を自分自身のこととして捉えてしまう、「自我関与」の傾向が強いためです。

高校教師になった、私の教え子の1人は、仕事がハードであったがために、新採1年目に5キロ以上痩せてしまいました。それでも、「卒業式の日に生徒から、『僕みたいな生徒を見捨てないでくれて、ありがとうございます』と言われたんです」と、うれしそうに私

に報告してきました。大きなやりがいがあることはとてもよく分かります。だからこそ、「子どもたちのために」といった思いを抱えることによって、疲弊している教師が少なくないのだと思います。

教師の仕事について、私が特に心配していることは、責任もやりがいも大きい反面、孤立しやすいという点です。採用試験に合格し、教壇に立ったその瞬間から、生徒

片山教授からのアドバイス 1

自校の職員室の「フェーズ」を知る

ご自身が勤める学校の職員室の状態を、下の表でチェックすると、どのフェーズに該当するでしょうか。フェーズ0が1番よい状態で、教師一人ひとりが主体性を持ちながらも、孤立せずに働くことができている職員室です。そしてフェーズ3が、1番苦しい状態の職員室です。もしかすると、「私の学校の職員室はフェーズ3か2だ」といった先生もいらっしゃるかもしれません。しかし、決して過度に悲観しないでください。フェーズを下から上に上げていくためには、うまくいくように校内のシステムを整えることがまず必要ですが、そこから先は、実はそれほど時間を要するわけではありません。なぜなら、互いに認め合う関係ができ始めると、急速に職員室が楽しい場所になり、さらに、互いを認め合うようになるからです。大切なのは、自校の職員室がどのような状態にあるのかを把握し、よりよくしていこうという気持ちを持つことです。(片山教授)

図1 職員室のフェーズ

フェーズ	職員室の状態	教職員の状態	管理職の状態
フェーズ0	認められ感があり、主体性のある職員室	<ul style="list-style-type: none"> ■ 教職員同士が緩やかに認め合いながら、困り事などを相談する雑談が日常的に多い。 ■ 授業や諸活動に目標を持って取り組んでおり、自己効力感に満ちている。学校に誇りを持っている。 ■ 自分は何を期待されているのかが分かっており、職員室には柔らかな一体感がある。 ■ 教職員同士で問題を解決しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> • ビジョンがあり、リーダーシップが取れている。たとえ教職員と考えが一致しない場合であっても、議論することを常としており、コミュニケーションし続けようとする。 • 各場面でできるだけ前に出ず、教職員に任せるようにしている。 • 教職員を認め、教職員が自己決定できるように自由を保障している。
フェーズ1	認められ感のある、まあまあ安定した職員室	<ul style="list-style-type: none"> ■ 教職員同士に認め合う雰囲気がある。 ■ 授業や諸活動に取り組み、自分に期待されていることを行う準備がある。 ■ 教職員には、学校に対する大きな不満は特にない。その一方で、思考が停止しやすく、前年度踏襲が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> • 校長と教頭のコミュニケーションが一定程度取れて、ビジョンもリーダーシップもある。ただし、やや硬直化したリーダーシップである。 • 教職員を承認したり、自由を保障したりする点や、やや形式的である。
フェーズ2	認められ感がなく、崩壊の兆候が見られる職員室	<ul style="list-style-type: none"> ■ 職員室の居心地はあまりよくない。 ■ できる先生とできない先生の区別が見えやすい。 ■ 管理職や同僚から認められる機会が少なく、自分への期待を自覚しにくい。 ■ 互いに意見を出すことを自重し、顔をうかがいながら仕事をしている。 ■ 教職員同士に認め合う雰囲気があまりなく、教職員間の悪口が時々聞こえる。 ■ 教職員がグループ化しやすい。 ■ 学年経営等、分掌が機能しにくくなり、生徒指導等の事後処理に追われている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 校長にビジョンがなく、リーダーシップも弱い。 • 校長は高圧的に命令しようとする。 • 校長はさほど危機感を持っていない。 • 教職員との関係はシラッとされていて、溝がある。
フェーズ3	認められ感のない、崩壊した職員室	<ul style="list-style-type: none"> ■ 職員室に寄りつかない教職員が多い。 ■ できる先生とできない先生がはっきりしている。 ■ 教職員のグループ化も見えやすい。 ■ 教職員同士に認め合う雰囲気はなく、教職員間の悪口やいじめが日常的にある。 ■ 教職員の中に不満がくすぶっており、職員室に笑い声がない。 ■ 教職員は覇気がなく、疲れている。 ■ 教職員の退職や異動の希望、精神疾患による休職が続出する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 校長にはビジョンもリーダーシップもなく、諦めモードである。 • 校長は校長室にこもりっきりで、教職員に無関心だったり、反対に職員室に常時出入りし、高圧的な態度で指示をしたり、ハラステメントをしたりしている。

※片山教授の資料を基に編集部で作成。

化に直面しています。授業、学級経営、そして地域連携でも、新しい取り組みや、検討をし続けなければいけないことが山積している中、教師には、「ワンオペ」からの脱却が求められているのではないのでしょうか。個々の教師が個別に力を発揮するだけではなく、そうした教師一人ひとりが持つ力を結集させ、相乗的に高めていくことができるような組織を、意図的につくっていくために必要な考え方や方法を、主に管理職やミドルリーダーの視点で説明します。

ビジョンの共有によって、一人ひとりの教師をつなぐ

教師が孤立しない学校、職員室(図1)は、意図的につくっていくものです。放っておいてはよい人間関係はできないことを、まずは管理職やミドルリーダーの教師が認識することが重要です。教師が孤立しない学校をつくるためには、ビジョンの共有が必要です。ここで言うビジョンとは、「私たちの学校の生徒が、こうなっ

「たらいいな」といった夢、生徒の姿です。カリキュラム・マネジメントでは、育成を目指す生徒の姿を描くことが出発点になるため、

静岡県立富士東高校 (P.12～15)

でも、育成を目指す資質・能力を焦点化していましたが、それが学校が一体となって進めた教育活動の精選につながっています。**東京都・私立東一の江幼稚園 (P.10～11)**では、園長が様々な場面で、大切にしたい保育観を保育者に共有することにより、子どもの日常の遊びを分断させない視点での行事の精選に取り組んでいました。いずれも、ビジョンの共有が土台にある事例だと思えます。

ビジョンを描くためには、目の前の子どもをよく見る必要があります。高校の先生方であれば、一口に「生徒」と言っても、その実態は、学校によって大きく異なります。自校の生徒をどのように育てていくのか、そのビジョンを描くためには、日々の生徒の姿をつぶさに見るのが欠かせませんし、それは一部の教師の力でできることではありません。ビジョン

をとともに描き、共有するためには、ベテランの教師も若手の教師も自由に思いや考えを言える職員室をつくる必要があります。

年齢やキャリアの違いを超えて自由に語り合える場を意図的につくった事例が、**福井県・私立福井南高校 (P.6～7)**のテキスト「チャットツールの活用や「校内カフェ」、**徳島県立城南高校 (P.8～9)**のメンター制度です。

しかし、テキストチャットツールやメンター制度を導入しさえすれば、自由に思いや考えを言える場ができるわけではありません。城南高校の板谷和輝先生がおっしゃっているように、先生方が自由に語り合える場合は複数パターン必要であり、その中から自分に合う場を選べるのが大切です。

そして、この2校には、教師同士で自由に語り合う風土がそもそもあり、テキストチャットツールやメンター制度によって、その風土がさらに豊かになったのだと思います。自由に語り合える場づくりは大切だけれども、その場をうまく活用できる職員室の雰囲気づ

片山教授からのアドバイス 2

異なるコミュニティへ参加してみる

教師一人ひとりが孤立せず、互いに認め合いながら働き続ける職場をつくる1つのアクションとして、「事実承認」を紹介しました。事実承認を通じて、所属する学校、職員室をよりよくすることは確かに大切なことですが、先生方には、自分の学校、職員室以外のコミュニティに参加することもお勧めしたいです。所属するコミュニティが増えれば、当然、認められる機会が増え、その観点も多様になります。自校の職員室で持つものとは異なる「認められている感覚」を味わえるのです。先生方が生徒に部活動やボランティアの参加を勧めるのは、クラス以外のコミュニティに参加してほしいからだと思いますが、先生方にも同じことが言えるのではないのでしょうか。

もちろん、異なる価値観や興味・関心を持つ人たちが所属するコミュニティに参加するのは勇気が必要でしょうから、無理をしてまで、学校と全く無縁のコミュニティに参加することはありません。徳島県立城南高校 (P.8～9) の中本先生も、担当する教科が異なる板谷先生との日々の会話の中で、教師としての幅が広がったと語っています。校内の他教科、他学年、他分掌の先生との会話を心がけてみるのもよいと思います。

今まで自分が所属していたコミュニティを離れ、それまでとは違った視点で自分を振り返ると、ずっと気になっていたことが、「もしかすると大したことではないのかも」と思えることもあるものです。いろいろな人と話すことで、自分の見方・考え方が変わることはあるでしょうし、新しいアイデアも浮かんでくると思います。(片山教授)

くりも欠かせません。

管理職、ミドルリーダーの 事実承認が学校を変える

教師同士が自由に語り合う風土をつくるための方法として先生方にご紹介したいのが、「事実承認」というコーチングの手法です。

事実承認は、文字通り、相手の

行った言動(事実)をそのまま承認することです。「今日も元気そうだね」「難しそうなことに取り組んでいますね」などと、校務に取り組む様子を見たまま、肯定的に言葉にします。それによって相手は、「自分のことをちゃんと見てくれている」と、うれしい気持ちになります。それが互いを認め、自由に思いや考えを言い合える職

「職員室を先生たちの学びの場に」をテーマとした片山教授のお話が動画で視聴可能



〈YouTube 片山紀子 Channel〉

<https://www.youtube.com/channel/UCg23jaafpa81V4pJ3PT2q2w>

現在、「職員室を先生たちの学びの場に」というテーマで、片山教授、京都教育大学の富永吉喜教授、同志社大学の太田肇教授が語り合う、全4回の動画を公開中。事実承認の大切さと取り組み方などを解説している。

員室づくりの一步になります。事実承認を行うためには、相手のことをよく見ることが大切です。普段の職員室でのひと言も事実承認の対象になりますから、聞

くことも大切です。自分とは違う意見であっても「確かにそういう考えもありますね」と、その存在を承認すればよいのです。そして、自分の心に留まった事実を相手に伝える際には、「アイメッセージ」を心がけます。「私は、〇〇先生の板書は見やすいと思いますよ」「昨日の学年集会での〇〇先生の説明は、私はとてもよく理解できました」のように、「私」を主語にするのです。また、教師はよく、「〇〇先生は、授業が上手」「〇〇先生は、生徒への声かけがうまい」といった言い方をしますが、どこがどのようによいのか、それによって、どのような教育効果が表れているのかを具体的に言葉にすることで、相手の自己効力感、自己肯定感の向上につながります。「昨年はこちらだけでできていたけれど、今年はさらにこれもできたのですね」などと、他者と比べるのではなく、その人自身の進歩を認めてあげることも大切です。事実承認は、管理職やミドルリーダーが職員会議などで率先し

教師が生き生きと働く、持続可能な学校づくりのための3つのステップ

学校を教師にとって持続可能な場所とするためには、教師間の豊かなコミュニケーションや教育活動の精選などが欠かせない。しかし、それらを実践していくためには、管理職やミドルリーダーが、以下のようなステップで、教師間のつながりをじっくりと強めていく必要がある。

① 認め合える人間関係を構築

事実承認を大切にし、日々の学校生活の中で互いを認め合う声かけを行うことで、教師一人ひとりにおける学校の居心地のよさを高める。

② 生徒を話題にビジョンを語り、共有する

互いを認め合う風土を職員室に育みながら、年齢やキャリアの違いを超えて、「生徒にはこのようになってほしい」と、目標とする生徒像を語り合う。

③ 自校に合った施策を検討

互いに認め合う関係の中で共通のビジョンを描けたら、教育活動の精選や校内研修、教師間のコミュニケーションのあり方などを具体的に検討する。

※片山教授への取材を基に編集部で作成。

て行きます。「〇〇先生、いい笑顔ですね」「〇〇先生の今の指摘に私は納得しました」と、事実を言葉にします。最初は互いにぎこちなさを感じるかもしれませんが、そのうちに慣れ、職員室の雰囲気も変わっていきます。1、2回だけ事実承認の声かけをして「何も変わらない」と諦めてしまいうのはもったいないことです。先生方がクラスづくりに時間をかけるように、1か月、1学期と、信念を持って続けてください。必ず教師間の関係性に変化が生まれます。

今回の事例は、「雑談」という言葉もキーワードの1つだったように思います。雑談は自由なおしゃべりですが、雑談が教育観の共有や教育活動の改善につながるのには、教師たちにビジョンが共有されているからです。事実承認を行い、互いが認め合う安心感を味わうことで、教師一人ひとりが思いや考えを言いやすくなれば、ビジョンが共有できず。そうすると、雑談が今まで以上にしやすくなります。そうならば、P.17 図1で示した職員室のフェーズは大きく改善するはずですよ。

変化の激しい社会で 「学び続ける教師」 であるために

ここまでの話から、教師という仕事を持続可能なものにするためには、安心・安全な場づくりと、そうした環境下で行う教育活動の精選などが必要であることが分かった。それらは、教師同士の協働によるものだが、では、教師一人ひとりが生き生きと働き続けるために自身でできることは何だろうか。その1つとして考えられるのが、「学び続ける」ことだ。そこでここでは、教師が学び続けることについて、それを日々心がけ、実践している教師たちによる座談会を通じて考えていく。

教師には、多様な生徒に
寄り添う力が求められる

三浦 中央教育審議会『令和の日本型学校教育』を担う教師の在り方特別部会』の審議まとめでは、「自らの日々の経験や他者から学ぶといった『現場の経験』を重視したスタイルの学び」や「全教員に共通に求められる基本的な知識技能というレベルを超えて、

新たな領域の専門性を身に付けるなど強みを伸ばすこと」など、教師に求められる新たな学びの姿が述べられています。新学習指導要領の下、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るためには、ICTの活用を始めとした授業づくりのスキルの向上が必要であることは確かです。先生方は、非連続で劇的に変わる社会を生きる生徒を育てる教師として、どの

ような場面で自身の学びの必要性を実感していますか。
佐々木 教師になって14年目になります。生徒の心に火をつけることが難しくなってきたと感じています。かつては、分かりやすい授業で生徒に成功体験を味わってもらえれば、学習意欲を高めることができました。しかし最近、生徒によって心の火のつき方が違ってきていると感じます。部活動

課外活動、探究学習など、校内外の多様な活動が生徒のやる気につながるため、教師は、担当教科の授業だけではなく、様々なことに生徒と一緒にチャレンジし、学ぶことが求められていると思えます。以前、高齢者医療を通じたまちづくりをしたいと考えた生徒と、いろいろな施設を訪ね、関係者の話を聞く機会がありました。生徒は、探究学習などを通して未知のこ

東京都・私立
かえつ有明中・高校
佐藤あやか

北海道・
市立札幌藻岩高校
佐々木佑季



ファシリテーター

ノートルダム清心女子大学 非常勤講師
元岡山県立林野高校校長

三浦隆志

岡山県立勝山高校教頭・副校長を経て、玉島商業高校、林野高校で校長を歴任。資質・能力の育成を目指す授業改善やICTの利活用を推進した。経済産業省「未来の教室」教育コーチ、岡山県 ICTPT 委員としても活動。自身が設立した「授業デザイン研究所」代表として現場を歩き、学校改革の支援を続ける。

とに挑戦していたわけですが、そのチャレンジに伴走している時に、自分も学んでいることを実感し、「もっと学びたい」と思いました。

佐藤 私の勤務校は、生徒が自分の興味のあるテーマで主体的に探究を進めるプロジェクト学習に力を入れており、生徒たちはそれぞれ、答えが1つではない問いに日々向き合っています。自身の多様な興味・関心が認められ、学びが深まった時、生徒にとつて学校



北海道・市立札幌藻岩高校
佐々木 佑季

ささき・ゆうき
教職歴13年。同校に赴任して5年目。数学科。社会の変化に対応する、探究学習などの新しい学びを校内で深めるため、ベネッセ教育総合研究所主催の「生徒の気づきと学び」を最大化するプロジェクト」などに積極的に参加。学びの機会を校内だけでなく、校外にも広げている。

設立 1973（昭和48）年
形態 単位制／普通科／共学
生徒数 1学年約240人
2022年度入試合格実績（現浪計） 国公立大は、小樽商科大、北海道大、北海道教育大学札幌校、弘前大、札幌医科大学などに91人が合格。私立大は、北星学園大、北海学園大、中央大、明治大、同志社大、立命館大などに延べ545人が合格。

は、「自分が生きる場所」になると思います。私たち教師には、生徒の多様性を受け止める力がますます求められていると感じます。

三浦 生徒一人ひとりのキャリア形成を支援するという教師の役割はこれからも変わらないけれども、生徒とともに未知の領域に飛び込み、気づきをつなげていくという役割は、確かにこれからの教師の大きな役割だと思いますし、そうした役割を果たすための学び



東京都・私立かえつ有明中・高校
佐藤 あやか

さとう・あやか
教職歴8年。同校に赴任して9年目。数学科。すべての学びを生徒主体で進める「高校新クラス」の3年生担任を務める。生徒の興味・関心を広げるきっかけをつくるために、プログラミングを独学で学び、授業に生かすなど、数学の授業の新しい可能性を模索し続けている。

設立 1903（明治36）年
形態 全日制／普通科／共学
生徒数 1学年約180人
2022年度入試合格実績（現浪計） 国公立大は、筑波大、千葉大、お茶の水女子大、東京工業大、神戸大、東京都立大などに15人が合格。私立大は、慶應義塾大、国際基督教大、上智大、東京理科大、早稲田大などに延べ405人が合格。

校内外のつながりの中で 価値転換を図る

三浦 自分の授業スタイルを転換させるのは、大変なことだったと思います。お一人で決意して、試行錯誤されたのですか。

佐藤 同じ数学科の主任の先生が支えてくれました。私の思いをお話ししたところ、「思い切ってやってみるといいよ」と背中を押してくれましたし、「今日の授業はどうだった？」と、いつも気にかけて、話を聞いてくれました。新しいことを実践すると、それだけで満足してしまいがちですが、主任の先生との対話の中で、自分の言葉で振り返ったことで、冷静に授業を見直すことができたと思います。

佐々木 自分の実践を同僚に聞いてもらうことで、客観的に検証することができずし、他者の視点なしには、教師としてのよりよい自己評価もできないと思います。教師としての新しい学びには他者の支援が不可欠であることは、『生徒の気づきと学び』を最大化するプロジェクト（*）を始め

が教師に求められていると思えます。一方で、教科の指導スキルの向上も、ますます求められているのではないのでしょうか。私は、40代半ばの時に、講義形式の授業だけでは生徒の学力を向上させることには限界があり、ましてやその原因が生徒のやる気にあると捉えるのは間違いだと考えるようになりしました。そこで、協働学習について詳しい大学教授に教えを請い、「教え方」だけでなく、「学び方」についても学び始めました。授業においても、目の前の生徒に、教師としての学びを促されてきたように思います。

佐藤 私は、教壇に立ち始めてからしばらくは、生徒に厳しく接して勉強をさせる教師でした。しかし、ある時、私が細かく指示をしないと勉強しない生徒を育てていることに気がきました。それから様々な授業方法を学び、現在は、生徒自身に授業における目標を設定させるとともに、目標達成のためにどのように学ぶのかを考えさせる時間を授業中に増やしてきているところです。

* ベネッセ教育総合研究所が主催する、有志の中学校・高校の教師を対象とするオンライン対話型プロジェクト。2020年4月、コロナ禍における「生徒の気づきと学び」を最大化することを目指し、発足された。

とする校外の勉強会に参加するようになり、実感しました。オンライン授業の進め方など、コロナ禍という想定外の状況下での疑問や悩みをいろいろな先生方に打ち明けたところ、たくさんの方がアドバイスをくださり、連携の手を差し伸べてくれました。大変な時ほど、問題を1人で抱え込んではいけないということを、同プロジェクトを通して学びました。

三浦 想定外の状況は、教師のあり方を大きく変えます。2011年の東日本大震災では、創造的復興の実現に向けて、学校現場でも、対話を通して新たな価値の創出の重要性が認識され、そのための手法を教師は積極的に学ぶようになりました。その成果は、新学習指導要領で目指している「主体的・対話的で深い学び」の実現にも確実につながっていると思います。では、コロナ禍は、お二人の先生の学びにどのような影響を与えたのでしょうか。

佐々木 臨時休業は大きな困難でしたが、外部のオンラインの研究会などに参加することで、異業種

の方を含む校外のつながりが豊かになりましたし、校内でも、オンラインで研修の機会をつくり、同僚と学び合っていました。そうした経験は、本校の探究学習の土台の一部になっています。教師が学び続け、社会の様々な変化に対応できないと、その時代に必要な教育を展開することができないというところに、このコロナ禍の中で気づくことができたと思います。

佐藤 今まであたり前だったものが失われ、教育とは何か、学校とは何か、教師はどのような存在であるべきかを、改めて考えるきっかけになりました。学校行事や部活動などの制限により、生徒も教師も、思うような学校生活が送れないことは今でもあります。その中でも、どうすれば多くの学びや気づきが得られるのかを考え、今まで以上に、生徒と、そして同僚の先生たちと真剣に向き合うようになったと思います。ピンチはあったけれども、成長や転換という点では、チャンスでもあったのだと思っています。

学び続ける教師が、 学び続ける生徒を育てる

三浦 校内外の人たちとつながり、学びを広げる様子は、「越境する学び」そのものだと思います。一方で、日々、生徒に向き合わなければならぬ教師という仕事では、ほかの職種のように、一時的に現業を離れて他業種などで学び直すリカレント教育は、容易には実現しません。だからこそ、これからの教育活動において必要とされるスキルを獲得していく「リスキリング」が重要だと思うのです。

お二人の先生も、多忙中でも知識をバージョンアップし、経験を積み続けるために心がけていることがあるのではないのでしょうか。

佐々木 本校の先生方の机は、基本的に職員室にあるのですが、私も含め、進路室常駐の先生方は、職員室に机がなく、職員室に机がある先生方とのコミュニケーションが不足しがちです。そのため、内線通話などで済む話でも、実際に職員室に足を運び、顔を合わせて対話することを心がけていま

す。ちょっとしたことですが、同僚間で学びを促す行為と言えるかもしれません。

佐藤 私は、「ただ聴く」ということも大切にしています。教師同士でアドバイスをし合ったり、意見を言い合ったりすることは大切です。ただ、アドバイスをや意見には、必ず評価が伴います。そこで、相手を評価せず、ただ相手の話を受け入れる時間をつくることで、安心・安全な場が生まれ、互いにエネルギーを与え合い、仲間とともに学んでいこうという気持ちが高まるのではないのでしょうか。

三浦 先生方が学校とともに学び合い、成長実感を持つことは、生徒にも必ずよい影響を与えます。私がかつて勤務した学校で1人1台端末の活用を進めた時、生徒の表情がよい方向に変わっていったのは、端末の力だけではなく、新しいスキルを身につけようと頑張る教師の本気を、生徒が感じ取ったからだと思います。学びの相互作用が、教師、生徒という立場の違いを超えて連鎖する場を、今後もつくっていききたいですね。

For School Section

学校改革や組織運営に役立つ
事例や情報を、
先生方の思いを乗せてお届けする

P.24

指導変革の軌跡

その時、教師は何を考え、どう動いたか。
学校改革の過程を当事者の言葉で追う

お勧めの分掌▶

管理職

教務担当

進路担当

福井県立坂井高校

大学進学志望に応える学校改革

放課後講座を一新し、総合型・学校推薦型選抜に
対応した進路探究などを通じて、思考力や表現力を育成

P.28

—疑問や課題を解決！実践につながる！—

新課程レポート

ベネッセ教育情報センター

現場が直面する課題や疑問の解決に
つながる事例や解説記事を提供

お勧めの分掌▶

管理職

教務担当

新課程の学習評価 3つの課題

ウェブセミナー

「学び続ける生徒の育成に向けて。新課程における教育実践と深化」第1回
先進校の実践から考える観点別評価の実践と見通し

P.32



学年団を訪ねて

学年経営に悩む先生方に！
チームづくりの秘訣を掘り下げる

お勧めの分掌▶

学年団

担任

おおたわら 栃木県立大田原高校 2021年度3学年団

笑い声の絶えない関係性の中で、
明確に共有した課題に挑む

P.36



お勧めの分掌▶

管理職

いざという時の対応は平時の準備で決まる。学校危機管理の専門家が解説

登下校中の事故

福井県立坂井高校

大学進学志望に応える学校改革

放課後講座を一新し、総合型・学校推薦型選抜に
対応した進路探究などを通じて、思考力や表現力を育成



学校概要

- ◎設立 2014（平成26）年
- ◎形態 全日制／食農科学科、機械・自動車科、電気・情報システム科、ビジネス・生活デザイン科／共学
- ◎生徒数 1学年約250人
- ◎2021年度進路実績（現役のみ） 国公立大は、福井大、福井県立大に5人が合格。私立大は、金沢工業大、仁愛大、福井医療大、福井工業大、岐阜協立大、同志社などに延べ30人が合格。短大・専門学校進学58人。就職137人。

変革の背景

専門性を生かして就職する生徒が多い中、
大学進学志望者への支援が課題に

福井県立坂井高校は、食農科学科、機械・自動車科、電気・情報システム科、ビジネス・生活デザイン科の4学科8コースを擁する県内最大規模の総合産業高校だ。2014年度、複数の専門高校・学科が統合して開校した。ロボットコンテストでの県大会上位入賞、お菓子の商品開発・販売など、生徒は各コースの専門性を発揮して活躍するほか、17年度には、野球部が夏の全国高校野球選手権大会に初出場を果たすなど、部活動も盛んだ。

そうした同校だが、開校当初は生徒指導が課題だった。教師は、生徒が落ち着いて授業を受けられるよう、服装や挨拶の指導を徹底し、生徒の規範意識の向上に努めた。生徒指導を基盤とする学校文化は今も受け継がれていると、内藤俊治校長は語る。

「本校に赴任した時に強く感じたのは、生徒が成長するためにどうすればよいのかを第一に考える、先生方の意識の高さでした。生徒が不安定な時ほど、教師は前向きな姿勢で生徒に寄り添っています。生徒指導に力を入れてきた経験が、教師としてのしつかりとした基盤となっていると感じています」

生徒指導とともに、同校が開校から一貫して取り組んでいるのが、多様な希望進路に

える進路指導だ。4学科8コースを擁するため、進学・就職のいずれも希望分野は幅広く、外部の資格・検定試験を受験する生徒も多い。そうした中で課題だったのが、大学進学指導だ。就職希望者の割合が高いこともあり、大学進学志望者が周りの雰囲気にならされて進路変更をすることがしばしばあった。また、教育課程は専門科目に即していたことから、特に

国公立大学を志望する場合は5教科の個別対策が必要であり、生徒も教師も、部活動での実績を生かして、指定校制による学校推薦型選抜を利用しようとする意識が強かったという。

開校以来、放課後週2回、希望者を対象に国語・数学・英語の補習講座「放課後パワーアップタイム（以下、放課後PUT）」を行っ

ていたが、それにも課題があったと、進路指導部長の出口浩史^{ひろふみ}先生は語る。

「放課後PUT」は、生徒の基礎学力の定着には一定の効果がありました。進路志望者として、授業の補習の希望者が混在していたため、それぞれの課題に対応した指導をしきれませんでした。講座を担当する教師から、何に取り組ませればよいか分からないといった声が進路指導部に寄せられたこともありまし

変革の一手

大学合格というゴールから逆算して、1・2年次の放課後講座を組み立てる

「このままでは、生徒の希望進路の実現につながらない」という危機感から、19年度、進路指導部進学担当の上野早苗先生を中心とする「放課後PUT」の改革に着手した。

まず、講座の目的を、4年制大学と医療看護系学校の進路志望者、及び公務員就職希望者への支援に絞った。次に約30人の受講希望者に進路志望調査を実施し、進学の目的、志望大学・学部・学科名、受験予定の入試方式、志望校への思い、受講への意気込み、自分自身につけたいと考える力について書かせた。そして、進路指導部の教師は、受講希望者の

志望大学・学部に絞って、総合型・学校推薦型選抜の小論文や面接などの試験内容、必要な資格・検定試験などについて調べ、3年間の講座の内容を決めていった。

「本校を『進学できる学校』にしたいと思っていますが、『進学校』にしたいわけではありません。『希望進路の実現』というゴールから逆算して、入学時からすべきことを考え、1〜3年次それぞれのプログラムを作成しました。必然的に、当時進行していた大学入試改革と向き合うことになり、これからの社会や大学で求められる資質・能力についても深く考える機会になりました。そうした環境変化の中でも、就職率を維持しつつ、大学進学志望もかなえる学校となり、地域からの信頼をさらに高めることを目指しました（上野先生）

「放課後PUT」は、次のようにリニューアルした。1年次は、学習習慣と基礎学力の定着を目的として、国語・数学・英語の指導をローテーションで週2回実施。加えて、ベネッセの「スタディープログラム」(*1)のテキスト及び学習動画を活用し、生徒が各自で家庭学習に取り組むこととした(22年度からは、「Classi」[*2]を活用)。

2年次は、小論文・面接で求められる思考力や表現力の向上を目的とし、「進路探究」「論理言語力」「現代の課題」「小論文」のいずれ

図1 「放課後パワーアップタイム」2年次の講座内容

実施回数	毎週水曜日の放課後50分間。6〜3月で合計17回+夏季休業中4回+実力診断テスト2回
実施内容	①使える知識・技能〔学力〕の習得、②思考力・表現力の育成、③主体性・協働性の伸長を目的として、毎回、次の4つのいずれかをテーマにした課題を実施。 進路探究：学習プランの作成、夏季休業中の取り組みの共有など。 論理言語力：「Literas 論理言語力検定 ワークブック」(*3)を活用して、読解力や聴解力などを育成。 現代の課題：環境、福祉など、分野ごとに現代の課題について学び、自身の志望分野との関連性を考える。 小論文：小論文の書き方を学ぶ。 ほかにも、夏季休業中の課題として、オープンキャンパスの参加レポートや志望分野に関する書籍を読んだ感想レポートなどがある。

※学校資料を基に編集部で作成。

かをテーマにした課題に週1回取り組むことに(図1)。そして、志望校の入試に必要な教科の学習には、「Classi」の学習動画などを活用しながら個別で取り組むことにした。
1・2年次に段階的に進路意識や教科学力、思考力・表現力等を高めていき、3年次は、志望校の入試に応じた個別指導を行う。また、公務員試験対策に特化した講座も、1〜3年生を対象に設けた。

*1 ベネッセが提供する、これまでの学びの積み残しをなくし、これからの学びの積み上げをサポートする、学習・診断を一体化した教材。 *2 株式会社ベネッセホールディングスとソフトバンク株式会社の合弁会社であるClassi株式会社が提供する、学校教育でのICT活用を総合的に支援するサービス。 *3 ベネッセの「Literas 論理言語力検定」の対策教材で、言語力の育成や社会への理解を深めることをねらいとした教材。詳細はP.59参照。

社会の変化と大学入試改革を踏まえ、 教科を超えて教師の協力を得る

一新した「放課後PUT」の実施にあたっては、講座内容に加え、今後の社会の変化と、その社会を生きていく生徒が卒業までに身につけておきたい資質・能力、さらに大学入試改革の内容についてまとめた資料を作成し、進路指導部の教師が各教科に説明して回った。

「大学入試対策と言えば、教科学力を強化する指導が一般的だったので、先生方からは、総合型・学校推薦型選抜の対策を中心とした『放課後PUT』の内容で大丈夫なのかといった声も聞かれました。しかし、大学入試が変わるこれからは、思考力や表現力などを高め、社会課題に対する意見をしっかりと持たせることができれば、国公立大学の合格も目指せると、粘り強く説明しました」（上野先生）

出口先生は、「放課後PUT」に意欲的な教師を進路指導部に配置し、取り組みを後押しした。進路指導部進学担当の前田圭佑先生は、小論文指導の協力をすべての教科に呼びかけたという。

「部活動を頑張り、さらに希望進路をかなえようと『放課後PUT』にも真剣に取り組み生徒の力になりたいと思い、先生方に生徒の支援をお願いしました。多くの教師に見守られていると感じられれば、生徒のモチベー

ションも高まると考えました」

すると、以前より小論文指導の中心を担っていた国語科に加え、理科・数学科が大学入学共通テスト対策の個別指導にあたるようになった。政治・経済の講座は地理・歴史科の教師が、医療・看護の講座は養護教諭が講師を務めるなど、教科を超え、全校で指導にあたる体制がつくられていった。また、工業科の授業で課題研究を工夫すると、生徒が自身の志望を深く考えるようになった。

「放課後PUT」の成果はすぐに表れた。一新した2年目に行われた21年度大学入試では、国公立大学に4人が合格。翌22年度大学入試では、過去最高の5人が合格した。

そうした先輩たちの姿に刺激を受け、生徒の学習姿勢は前向きになった。途中からでも「放課後PUT」を受講したいという生徒や、3年生になったら1日でも早く個別指導を受けたいと申し出る生徒もいる。

「国公立大学の合格者数が急増したことで、先輩がロールモデルとなり、大学に進学し、専門分野の知識や技能を高めてから就職しようといったキャリア観の変化も起きています。入学当初から大学進学を希望する生徒が増えていることから、『進学もできる学校』というイメージが、地域に浸透しつつあると感じます」（出口先生）



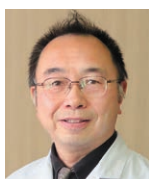
校長
内藤俊治 ないとう・しゅんじ
教職歴38年。同校に赴任して4年目。



進路指導部長
出口浩史 でぐち・ひろふみ
教職歴36年。同校に赴任して9年目。国語科。



進路指導部進学担当、3学年主任
上野早苗 うへの・さなえ
教職歴27年。同校に赴任して8年目。国語科。



MH事業プロデューサー
南良一 みなみ・りょういち
教職歴40年。同校に赴任して2年目。数学科。



進路指導部進学担当、2学年担任
前田圭佑 まえだ・けいすけ
教職歴11年。同校に赴任して2年目。数学科。

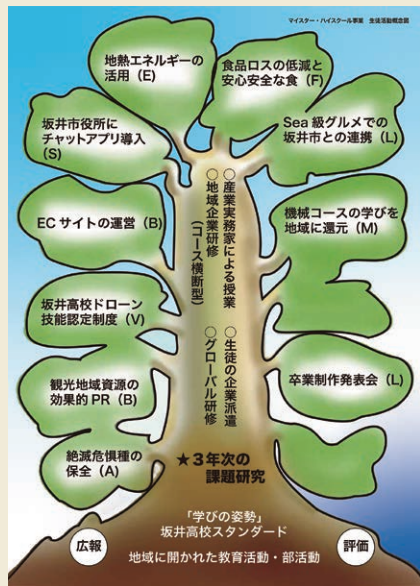
変革の成果・展望

文部科学省の事業指定を機に、
学科共通で育成を目指す資質・姿勢を策定

進学意識も定着しつつある同校は、21年度、文部科学省「マイスター・ハイスクール」（以下、MH）（*4）の指定を機に、資質・姿勢ベースの共通認識構築に向けて動き出した。

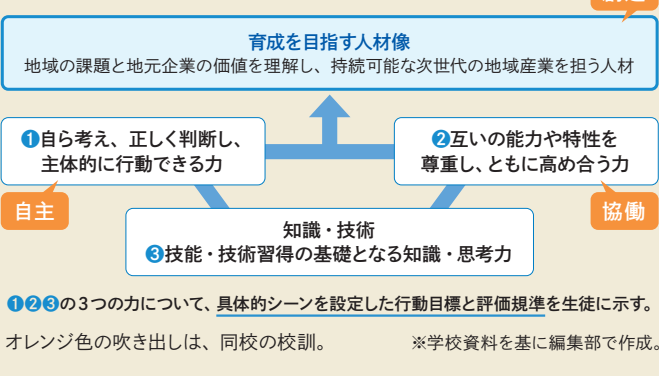
*4 第4次産業革命の進展、デジタルトランスフォーメーション、6次産業化等を踏まえ、産業界と専門高校が一体・同期化して職業人育成システムの構築を目指す事業。

図2 「マイスター・ハイスクール」における「生徒活動概念図」



※学校資料をそのまま掲載。

図3 「坂井高校スタンダード」のグランドデザイン案



した原案を、4月以降、職員会議で議論しながら練り上げ、22年度中の運用を目指している。

「坂井高校スタンダード」のグランドデザインは、MH事業指定終了後も継続するものとするため、事業で育成を目指す人材像を意識しつつ、校訓を踏まえたものになりました。行動目標や評価規準は、生徒が各目標を具体的にイメージできるように文言にすることを心がけました。その原案を基に全教師で議論を重ね、本校の伝統として継承していく、まさに『スタンダード』となる内容にしたいと考えています」（上野先生）

MH事業の中心である地域連携は、コロナ禍の影響でほとんどの活動が中止となったが、全コース合同の課題研究発表会を22年2月に初めて実施した。実施後の生徒へのアンケートでは、「他コースの発表に刺激を受けた」といった声が多数寄せられた。

「学科横断で課題研究を行おうといった声が、教師から上がっています。他コースの学びを知ることで、生徒は様々な産業が繋がっていることに気づくでしょう。その経験は、大学進学後や就職後にも必ず役に立つはずで、坂井高校スタンダードによって、生徒や教師の認識が共通のものとなり、『放課後PUT』を始めとする従来の取り組みにおいても、一層の成果が出ると期待しています」（南先生）

MH事業プロデューサーの南良一先生は、そのねらいを次のように語る。

「全生徒が対象のMH事業を通じて、普通教科・専門教科の教師が、学科横断で連携して先端研究や地域連携に取り組むことで、それぞれの専門性を発揮しながら、学校全体としての特色を打ち出すことが必要だと思っています。そこで、まずは本校で身につけるべき全コースで統一した『学びに向かう姿勢』の共通認識を、教師間、そして教師と生徒の間で持てるようにしようとしています」

MH事業の概要を示した「生徒活動概念図」(図2)では、MH事業で育成を目指す人材像に近づくための土台に、「学びの姿勢」坂井高校スタンダード」を位置づけた。現在、そ

の具体的な内容を、7人の教師から成る「学びの姿勢グループ」が中心となって検討している。同グループでは、全教師に生徒の強みと弱みを挙げてもらい、SWOT分析で現状を整理した上で、「育成を目指す人材像」と、その達成に向けて育成する3つの力を設定(図3)。その3つの力の発揮が求められる具体的な場面として、「授業」「提出物」「清掃」「友達関係」などを挙げ、各場面における行動目標と評価規準を作成した。22年3月末に作成

新学習指導要領がスタートした2022年度、学校現場には資質・能力を育成するための指導と評価を積み重ねながら、より自校に合った形へと軌道修正していくことが求められる。現場が直面する課題や疑問を解決し、よりよい計画・実践につながる情報を提供する。

— 疑問や課題を解決！実践につながる！ —

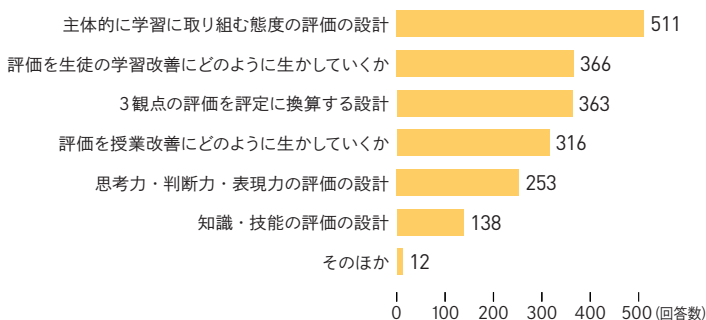
新課程レポート

ベネッセ教育情報センター

テーマ

新課程の学習評価 3つの課題

図1 観点別評価における学校現場の課題



*ウェブセミナー「新課程における教育実践と深化」第1回申込者への事前アンケート結果(658件)より

セミナーレポート

ウェブセミナー「学び続ける生徒の育成に向けて。新課程における教育実践と深化」第1回
先進校の実践から考える観点別評価の実践と見通し

新学習指導要領の実施初年度である2022年度、新課程に関連する現場の諸課題の解決のため、ベネッセ教育情報センターは、「学習評価」「教科「情報」「探究」「新課程入試」をテーマとするセミナーを実施予定だ。今号は、その第1回、4月に行った「先進校の実践から考える観点別評価の実践と見通し」の概要を紹介する。

申込者への事前アンケートから観点別学習状況の評価（以下、観点別評価）における課題感を整理

したところ（図1）、「主体的に学習に取り組む態度の評価の設計」「評価を生徒の学習改善にどのように生かしていくか」などの課題を抱えていることが分かった。そこで今回のセミナーでは、「『主体的に学習に取り組む態度』の評価」「3観点の評価を学習改善にどうつなげるか」「納得感のある評価への深化」の3つの課題に取り組み上でのヒントを、実践例を通じて紹介した。

課題 1 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

協働的な学びにおける思考の深化を通して見取る

大阪府立吹田東高校では、「数学Ⅲ」の授業において口頭試問（図2）を実施し、「思考力」と「主体的に学習に取り組む態度」を見取っている。口頭試問の前に生徒

は教師が提示した5問の中から3問を選択し、1問10分程度、生徒同士で理解を深めるための議論を行う（ギャラリートーク）。その後、ワークシートに自分の解答を記入する。教師はギャラリートークの内容やワークシートの記入内容を基に「主体的に学習に取り組む

図2 吹田東高校の口頭試問の流れ

口頭試問実施前の授業 (1コマ)

- 1 設問を記載したワークシートを生徒に配布。

質問票
1 次の積分の例を挙げて下さい。 ・部分積分を2回以上用いて計算をする不定積分 ・三角関数で置換する定積分
2 積分を用いると $x=f(y)$ や媒介変数表示の関数の面積を求められます。 面積を求める方法と、面積を求められる理由を説明してください。
3 積分を用いると x 軸まわりの回転体 (y 軸まわりの回転体) の体積を求められます。 体積を求める方法と、体積を求められる理由を説明してください。
4 微分と積分を用いると、曲線の長さを求められます。

- 2 提示された設問の中から生徒自身で3問を選択する。
- 3 同じ設問を選択した生徒同士でギャラリートークを行い、その設問に対する理解を深め、口頭試問に向けて解答を作成する。
- 4 ギャラリートークで得られた他者の意見や知識を踏まえ、各設問の解答をワークシートに記入する。
- 5 記入したワークシートの内容やギャラリートークの様子を見て、教師は「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

1. 評価基準	
4	● 自明でない適切な具体例を挙げる事ができている。 ● 質問の意図を理解し、適切に説明することができている。
3	● 自明であるが、適切な具体例を挙げる事ができている。 ● 過不足あるものの、適切に説明することができている。
2	● 自明であるが、適切な具体例を挙げる事ができている。 ● 質問を理解しているが言葉が足らず、説明できていない。
1	● 適切な具体例を挙げる事ができない。 ● 質問を理解できず、説明できない。
主体性	● 選んだ3つの質問の「答え方」が内容も合わせて十分書かれている。

む態度」を、最後に実施する口頭試問のパフォーマンスで、「思考力」を評価する。

当初、ギャラリートークを取り入れずに口頭試問を実施したところ、つけ焼き刃の暗記をして臨む生徒がいたが、他者と意見を練り上げる時間を設けたところ、問いに対する理解を深め、自信を持って口頭試問に臨める生徒が増えた。そして、口頭試問の経験や、学校推薦型選抜や総合型選抜などの入試対策に生かす生徒も出てきたという。

このほか、単元の終わりのタイミングで、シラバスに記された各教科・科目で育みたい力のルーブリックを踏まえて、生徒が自己評価を行い、それを「主体的に学習に取り組む態度」の評価のエビデンスとしている青森県立青森高校や、地学の授業でペアワークを2回実施し、他者の意見を聞きながら自身の解答をブラッシュアップするパフォーマンス課題を用いて、「主体的に学習に取り組む態度」を見取っている大阪府立鳳高校の事例を紹介した。

口頭試問当日

- 1 生徒が選択した3問の中から、教師が1問をピックアップし、口頭試問を実施。(1人あたり6~8分程度)
- 2 提示した設問の内容だけでなく、より深い思考が必要な問いも投げかけ、その解答の内容で「思考力」を見取る。

※学校資料を基に編集部で作成。

図3 御殿場高校の定期考査における観点別評価

※学校資料をそのまま掲載。

図4 御殿場高校の単元まとめシート

論理関係を確める 単元まとめ

この単元では評論の読み方とグラフや数字の見方を学習しました。授業を振り返り、評論を讀む上で注意すべきことを論じなさい。

◆ルーブリック	
A	・授業で取り扱った評論を讀むための具体的な方法をもとに、授業での気づきや自分なりの視点を含めて、評論文を讀む上で注意すべき点を記述できている。 ・相手に伝わるように論理的かつ表現に注意して書かれている。
B	・授業で取り扱った評論を讀むための具体的な方法をもとに、評論文を讀む上で注意すべき点を記述できている。 ・相手に伝わる表現で書かれている。
C	・授業で学んだことが書かれていない。 ・文章表現が適切でない。 ・テーマからずれている。字数が不足している。

※学校資料をそのまま掲載。

2 課題

3 観点の評価を学習改善にどうつなげるか

総括的評価の前に
振り返りの機会を与える

静岡県立御殿場高校では、定期考査の各問題で測ろうとしている資質・能力や出題の意図を生徒に伝えるようにしている(図3)。

答案が返却されると、生徒は、自分にはどういった資質・能力がまだ十分身につけていないのかを認

識することができ、その後の学習改善に生かすことができる。

さらに同校では、単元終了時に単元まとめシートを生徒に作成させている(図4)。単元まとめシートの作成にあたって、教師は事前にルーブリックを提示し、目標を意識して学習に取り組むことを促し、評価の際には、特にCとなった生徒に対して、落ち込む必要は

新課程入試についての 情報提供も！

今回のウェブセミナーでは、新課程入試となる2025年度入試の最新情報も提供した。

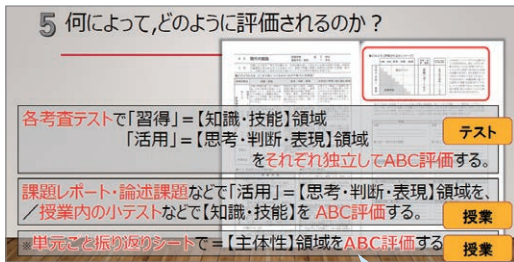
現場の関心が高い教科「情報」については、既に大学入学共通テストで「情報Ⅰ」が試験時間60分で実施されることが決定しており、国立大学では、25年度入試の共通テストにおいて、現在の5教科7科目に「情報」を加えた6教科8科目を課す方針を、国立大学協会が打ち出している。九州工業大学のように、共通テストで「情報Ⅰ」を必須科目にすると発表している大学もあり、今後の各大学の動きに注目したいところだ。

そのほか、現時点での新課程入試の情報をウェブセミナーで紹介した。P.31で案内しているウェブセミナーのアーカイブをぜひご覧いただきたい。

ないことを伝え、どうしてCだったのかをループリックを基に振り返らせるようにしている。Cの評価の生徒は、問いと解答がずれていることが多いため、その点に個別の声かけなどで気づかせ、次の単元に向けた学習改善につなげている。単に記入内容のよしあしだけを評価するのではなく、ループリックを基に1つ上の段階を目指すためにはどのような学習改善が必要なのかを伝えるようにしているのだ。

小テストの結果をループリックに基づいて生徒が自己評価した上で、生徒間での相互評価も行うようにしている。本人と他者で評価にずれが生じている場合は、教師が個別にフィードバックする。小テストによる形成的評価を充実させることで、生徒は学習改善の方向性を把握することができるようでなく、単元終了時などに実施されるパフォーマンス課題でどのような成果物が評価されるのかをあらかじめ認識することもできる。また、教師にとっては、生徒の実態を把握できるというメリットがある。

図5 青森高校の教師・生徒間での「評価観」の共有



新入生オリエンテーション後の生徒の声

- ・ 評価はテストの点数だけでなく、他の評価も踏まえてつくものだと分かった。学習ごとの振り返りで、次やらなければいけないことを明確にすることが大切だと思った。
- ・ 今までは、高校に入る、学校内でよい順位を取るという考えで勉強してきたけれど、それは勉強の本質からはかけ離れていたと分かった。これからは、真の学力を身につけ、高校で学んだことを大人になった時にしっかり生かせるようにしていきたい。
- ・ 正直これまで、授業で習ったことをそっくりそのまま覚えて、テストで点が取れればいいと思っていた。今日のオリエンテーションで、ただ理解するだけではなく、学んだことを活用して自分で物事を考え、発信することが、求められている思考力・判断力・表現力であると気づかされた。

※学校資料を基に編集部で作成。

課題 3

納得感のある評価への深化

入学段階で評価観を 生徒と共有する

青森高校では、新入生オリエンテーションで、学校として育成を目指す資質・能力と、それらが授業の中でどのように評価されるのかを示し、ペーパーテストの結果だけで評価がつけられるのではないことを伝えている(図5)。生徒の事後アンケートからは、生徒

の評価観が転換され、納得のいく評価を実現するための土壌が形成されていることが分かる。

鳳高校では、20年度の研究授業において、「思考力・判断力・表現力」を測るパフォーマンス課題で使用されるループリックを作成し、複数の教師が評価を実施した。ループリックには、理由・根拠にあたるキーワードの数や、ほかのグループの意見を取り入れている

図6 鳳高校の地歴・公民科でのルーブリックの見直し

倫理（2020年度） 思考・判断・表現力 のルーブリック	
評価	
A	①さまざまな先哲の思想（2人以上の思想）をもとに、考えることができる。 ②結論に対する理由や根拠を、キーワードを5つ以上用いて、論理的かつ明確に表現することができる。 ③自分の意見に対する批判も考え、それに答えることができる。 ④他者（他のグループ）の意見について触れられている。
B	⑤先哲の思想（1人のみ）をもとに、考えることができる。 ⑥結論に対する理由や根拠を、キーワードを用いて、論理的かつ明確に表現することができる。
C	⑤⑥を満たしていない。

評価	
A	①さまざまな先哲の思想を比較し、考えることができている。 ②結論に対する理由や根拠を、論理的かつ明確に述べることができる。
B	①先哲の思想を用いて考えることができている。 ②結論に対する理由や根拠を述べることができる。
C	不十分

※学校資料をそのまま掲載。

は、AAAだけではなく、AAB、ABAなど、Bが1つあっても評定は5とし、5の評定の幅を広げた。また、同校は就職志望者が多いため、生徒の進路決定に大きな影響が出ないよう、企業の採用担当者に評価方法を変更したことを説明し、これまでより評定が低い生徒であっても、今までの生徒に比べて必ずしも能力が劣っているとは限らないことを伝え、理解を求めている。

ることなど、複数の基準を盛り込んだが、基準を増やしすぎたことでABCいずれにもあてはまらない成果物や、内容は優れているのに低い評価となる成果物も出てきた。そこで、年度途中にルーブリックを見直し、本当に高く評価したい成果物を評価できるように、ある程度評価の幅を持たせる形に修正した（図6）。そして、パフォーマンス課題に取り組み前に、「こういう内容だとA評価」などと、

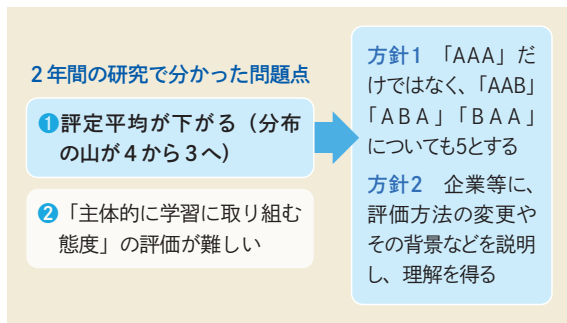
評価のポイントを口頭で補足することで、生徒は評価の意図がくみ取れるようになったという。

生徒の実態に合わせて評価方法を変更し、外部にも伝える

御殿場高校では21年度、試行的に観点別評価を実施し、評定を算出したところ、評定の分布の山は3となり、従来よりも評定平均が下がること分かった（図7）。

そこで、22年度の評価では、AAAだけではなく、AAB、ABAなど、Bが1つあっても評定は5とし、5の評定の幅を広げた。また、同校は就職志望者が多いため、生徒の進路決定に大きな影響が出ないよう、企業の採用担当者に評価方法を説明し、これまでより評定が低い生徒であっても、今までの生徒に比べて必ずしも能力が劣っているとは限らないことを伝え、理解を求めている。

図7 御殿場高校の評定への総括の方針の見直し



※学校資料を基に編集部で作成。

くという。

教師・生徒・保護者だけでなく、企業の採用担当者などのステークホルダーにも評価方法の変更と、それに伴う評価観を共有することも、納得感のある評価を実現するポイントの1つになるだろう。

そのように、先進校も、軌道修正を試みながら自校に合った評価へと磨き上げている。年度途中に振り返りの機会を設け、時には柔軟に軌道修正し、自校に合った評価の形を見いだしていただきたい。

「先進校の実践から考える観点別評価の実践と見直し」アーカイブ

https://bhsos.benesse.ne.jp/hs_online/seminar/2022/article/20220511_shinkatei/

ウェブセミナーをご視聴いただくことができます。講演資料もダウンロードいただけます。ぜひ、ご覧ください。

『ハイスクールオンライン』トップページ>新課程>指導と学習評価 よりチェック！

新課程に関する情報は、『ハイスクールオンライン』でお届けします！

- ・新教育課程の参考になる特設コーナー設置
- ・過去のオンラインセミナーのアーカイブ動画・資料などを掲載！

一疑問や課題を解決！実践につながる！

新課程レポート

ベネッセ教育情報センター

『ハイスクールオンライン』トップページ>新課程からアクセス

https://bhsos.benesse.ne.jp/hs_online/sidou/shinkatei/shidou/index.html



学年団を訪ねて

笑い声の絶えない関係性の中で、 明確に共有した課題に挑む

おおたわら
栃木県立大田原高校 2021年度3学年団



学年団が直面した課題

- ◎1年次7月の模擬試験の結果が、近年まれに見るほどの芳しくない内容となり、特に英語の底上げが必要だった。
- ◎所属する教師の進学指導の経験に差があったため、学年団総がかりの生徒支援が求められた。

学校概要

校訓「質素堅実」の下、教育目標として掲げる「真剣に学習に取り組み、豊かな創造力と正しい判断力を養う」「心身を鍛練し、不屈の精神とたくましい実践力を養う」「自他を敬愛し、感謝の心と奉仕の態度を養う」「規律と責任を重んじ、共同・連帯の精神を養う」ことを目指す。活発な部活動、自主的な生徒会活動などとともに、85キロ強歩、寒稽古などの伝統行事を今に受け継ぐ。2019年度に、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定を受け、「志と科学的リテラシーを育む文理融合型課題研究の開発」をテーマとした教育活動を展開する。

設立 1902（明治35）年

形態 全日制／普通科／男子校

生徒数 1学年約240人

2022年度入試合格実績（現役のみ） 国公立大は、東北大、宇都宮大、埼玉大、千葉大、名古屋大、国際教養大などに144人が合格。私立大は、上智大、中央大、東京理科大、法政大、明治大、早稲田などに延べ436人が合格。



模擬試験の結果が厳しくても、 明るく前向きな学年会議

2019年度、県内屈指の伝統校である栃木県立大田原高校は、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）として、新たな一歩を踏み出すことになった。そのため、SSH1期生となる19年度入学生に対しては、大きな期待が寄せられた。しかし、7月の模擬試験は、過去5年間で最低の結果に。中でも、英語の成績は危機的と言える状況だった。

だが、1学年主任の矢口一也^{かずや}先生は、悲観はしなかった。

「5月に全学年で行う、本校の伝統行事である85キロ強歩では、1年生も互いに声をかけ合い、多くの生徒が完歩を果たしました。結果的には、例年以上の完歩率だったのです。仲間を信頼し、励まし合うことができるこの生徒たちとなら、どんな困難もきつと乗り越えられるはずだと思います」

矢口先生は、学年団の教師と、英語の学習に特に力を入れようと目線合わせを行った。例年、理系学部の志望者が多く、数学、理科の学習に力を入れる同校だが、データや生徒の様子を踏まえて、英語の指導を重視したいと明確に指針を発信したのだ。また、SSHのテーマを「志と科学的リテラシーを育む文

理融合型課題研究の開発」とし、海外の高校と連携したり、課題研究の成果を英語でまとめたりする計画もある中で、生徒の英語力の伸長は、避けては通れない課題だという共通認識があった。そのため、学年団の目線はそろいやすかった。

模擬試験の結果は厳しかったが、学年団は皆前向きだったと矢口先生は振り返る。

「模擬試験の結果の分析を担当した加藤信行先生は、学年会議では、とにかくよかったところを挙げていました。3教科総合の結果は芳しくないのに、『この大問の正答率が高いです』『この単元は前回の模擬試験より得点率が上がりました』などと、よく見つけてくるなど感心するくらい、前向きに結果を評価していました。そして最後は、『先生方、この調子で頑張ってください』と笑顔で締め、全員が爆笑。加藤先生のおかげで、『まづいな』という不安が『何とかなる』という希望に変わりました」

当の加藤先生は、「内心は危機感でいっぱいだった」と打ち明ける。

「このままではまずいなとは確かに思っていました。しかし、先生方に対して危機感をおおりにすぎると、課題の量をやみくもに増やし、それをこなせない生徒を、『勉強しない生徒が悪い』と見放してしまうような悪い回



リーダーに聞く！ 5つのQ&A

Q どのようなチームを目指しましたか？

A 楽しく一緒に仕事をしていく中で、互いの信頼感が高まっていくようなチームです。

Q リーダーとして心がけていることは？

A まずは学年団の先生方が持つ、それぞれの強みをしっかり把握することに努めました。そして、具体的なアクションの場面では、自分が前面には出ず、先生方にリーダーになっていただき、権限も委譲するようにしました。

Q 学年団としての「成功」は？

A 生徒はもちろん、教師が成長することだと思います。例えば、初めて担任を務めた若い先生が、自信を持って教育を語ることができるようになることも、成功の一つです。

Q リーダーとして自覚する長所は何ですか？

A メンバーの気持ちを理解したり、場の空気を読んで調整したりする力だと思います。

Q リーダーとして自覚する短所は何ですか？

A 怒りの感情を表すのが苦手です。特に、同僚に対して怒りの感情を表さざるを得なかった時、「あれでよかったのだろうか」と、何日も悩んでしまったことがあります。

路に陥りかねません。担当教科では、どの層に、どういった指導が必要なのかを、先生方自身が前向きに考えられるような模擬試験の結果の共有の場をつくることに努めました」

この3年間、学年団の会議から笑い声が絶えることはなかった。赴任した20年度から矢口学年団に加わった瀬尾明久先生は、「年度最初の会議で笑いが起きるなんて、珍しい学校だな」と驚いたという。

「進学校の勤務は初めてでしたので、最初の学年団の会議にも緊張して参加しましたが、他の先生方の笑い声で気持ちが悪くなりましたし、そんな明るい学年団であることがとてもうれしかったです。学年団の雰囲気、早く自分も溶け込みたいと思いました」

教科・クラスを超えて、 真のチームとして生徒を育てる

2年生になっても模擬試験の結果に好転の兆しは見られず、英語は苦戦を続けていた。そんな中、初めての担任を務めながら、英語科主任の重責を担っていた田野辺俊介先生は、数学科の大金孝也先生と理科の加藤先生から、「数学と理科の補習の時間を、英語の補習の時間に回そうか？」と声をかけられた。

「伝統的に理数教科を重視する本校で、そうした言葉をかけてもらえたことは驚きでし

たし、ありがたかったです。自分は学年団というチームの一員なんだと感じました」

実は大金先生は、矢口先生から「担任と英語科主任の2つの大役を初めて担う田野辺先生を支えてほしい」と頼まれていた。それもあって、常に田野辺先生とコミュニケーションを取っていたから、補習の時間のことを正面切って提案できたと、大金先生は語る。

「担当の数学の授業の時にも、『英語の学習時間もちゃんと確保しているか？』と、生徒によく声をかけていましたし、加藤先生と相談して自分たちの担当教科の補習の時間を田野辺先生に預けることにした時も、『絶対に



写真 矢口学年の卒業記念に生徒に配布した、学年団の担任の似顔絵が印刷されたクリアファイル。その似顔絵は、学年通信などでも度々登場し、生徒に「先生たちはチームだ」と印象づけた。

英語の成績を上げてよ！」と、笑顔で田野辺先生に発破をかけました。田野辺先生も、「分かりました！」と笑顔で返してくれました」

進学校での指導経験の少ない担任・副担任を学年団全体でサポートするために大金先生が企画したのが、チューター制度だ。

「1人の生徒の進路・学習面を複数の教師で支援することができるよう、生徒が日頃からクラス担任以外の教師とも話せる仕組みをつくろうと考えました。実験的に、2年次の2学期に、担任をしていない生徒と面談を行い、3年次からは学年団全体の取り組みにしたいと、矢口先生に提案しました」

矢口先生は大金先生の提案を快諾し、3学年団の12人の正副担任は、担任をしているクラスを超えて生徒との面談を開始した。クラス担任の1人、金子ゆみ先生は、「学年団の先生同士で、面談した生徒の数を楽しく競い合っていた」と振り返る。

「加藤先生が、『私は今週3人の生徒と面談をしましたよ。金子先生は何人？』と、自慢気に言うのです。私も負けるものかと、空き時間を使って生徒と面談をしました」

初めて進学校で担任を務めた瀬尾先生も、「担任1人で抱え込まず、いろいろな先生のサポートを得ながら生徒を支援していけばよいと安心できた」と振り返る。

金子先生は、チューター制度は学年団の信



学年団を訪ねて



3 学年担任・英語科主任
田野辺俊介 たのべ・しゅんすけ
教職歴 5 年。同校に赴任して 5 年目。
英語科。



3 学年担任・特別活動部副部長
瀬尾明久 せお・あきひさ
教職歴 19 年。同校に赴任して 2 年目。
理科。



3 学年担任・進路指導部・SSH 部副部長
加藤信行 かとう・のぶゆき
教職歴 12 年。同校に赴任して 7 年目。
理科。



3 学年担任・進路指導部・教務部副部長
大金孝也 おおがね・たかや
教職歴 16 年。同校に赴任して 11 年目。
数学科。



3 学年副主任・担任
金子ゆみ かねこ・ゆみ
教職歴 30 年。同校に赴任して 4 年目。
国語科。



3 学年主任・担任
矢口一也 やぐち・かずや
教職歴 28 年。同校に赴任して 4 年目。
数学科。

頼関係があったからこそ成り立ったと語る。「クラスの枠を超えて生徒と面談を行う中で私たちが心がけたのは、生徒に多様な視点で提示しながら、学年団としての方針はぶれないようにしたことです。チューターの教師は、生徒との面談の内容を、その生徒の担任に報告するようにしていました。そうした情報共有があったからこそ、私も生徒に自信を持って思いを伝えることができましたし、面談した生徒が、『〇〇先生からも同じことを言われました』と話すことが何度もありました」担任をしないクラスの生徒と面談する際は、事前にどんな生徒なのかを担当にヒアリングする(加藤先生の取り組み)など、チューター制度は、学年団の教師のコミュニケーションをさらに活性化させる効果もあった。

加藤先生は、矢口学年団の3年間を「教師も自走していた」と振り返る。

『「学年主任の船に乗る」と言われますが、矢口先生の操る船にただじっと乗っているという感覚はなかったと思います。矢口先生の方を見ながらも、教師一人ひとりが自分の考えで動いていました。それができたのは、学年団の中に密なコミュニケーションがあったからだと思います」

22 年度大学入試において生徒たちが収めた成果は、国公立大学の現役合格者数が同校史

* 学年団 輝きのポイント *

- * 英語の学力の向上を学年団全体の重点課題としたことで、英語の補習の時間を他教科が融通するなど、協力体制が構築された
- * 学年団全体で生徒を支援し、教師同士の連携を強化するチューター制度を導入

上 3 番目の多さ、そして、現役合格率が過去最高という輝かしいものだった。懸案だった英語も、多くの生徒が、大学入学共通テストで教師の予想を超える好成績を残した。

「大学合格実績以上に私が誇りたいのは、3 年生になった生徒たちから、『受験は団体戦だ』という声が何度も聞こえてきたこと、そして、同じクラスの仲間の合格の知らせを、我が事のように喜び、ガッツポーズをする生徒たちの姿を見ることができたことです」(矢口先生)

学年団の教師たちの熱量とチームワークは、生徒たちをも 1 つにしたのだ。

※プロフィールは、2022 年 3 月時点のものです。

登下校中の事故

解説者



日本女子大学
教職教育開発センター
教授 坂田 仰

大阪府の公立高校に勤務後、東京大学大学院法学政治学研究所公法専攻博士課程単位取得退学。1996年、日本女子大学に赴任。専門は、憲法学、公教育制度論。2021年9月に『新訂第4版 図解・表解教育法規』（共著、教育開発研究所）を出版。

学校で起こり得る危機に対し、どのような備えをしておくべきか。事故や災害などが発生したり、被害を最小限にとどめるためにどう対応すればよいのか。学校の危機管理について研究する坂田仰教授が解説する本コーナー。第8回は、登下校中の事故について解説する。

生徒への交通安全指導と、地域と連携した通学路の安全確保が必要

高校では、電車や自転車など、生徒の通学の手段や経路は様々であり、登下校中の安全管理は、生徒自身に委ねられている部分が大さきと思います。学校保健安全法では、各校で通学を含めた学校生活その他日常生活における安全に関する指導について計画を策定・実行すること（第27条）や、児童生徒等の安全確保を図るため、保護者や地域の関係機関との連携を図るよう努めること（第30条）が規定されており、生徒への交通安全指導や、地域と連携した通学路の安全確保が必要になります。

また、文部科学省が毎年策定する「交通安全業務計画」(*1)では、通学路を含めた地域

社会の安全を確保する一般的な責務は、地域を管轄する自治体が有するとし、学校設置者や学校は、地域と一体となって通学路の安全対策に努めることとしています。加えて、生徒が在学中に二輪車や自動車の運転免許の取得可能年齢に達することを踏まえ、自転車や二輪車、自動車に関する安全指導を行い、交通事故には責任や補償問題が生じることや、加害事故を起こさない努力の必要性を生徒に理解させる交通安全教育の徹底を求めています。

登下校中に多い自転車事故 ヘルメット着用が努力義務の自治体も

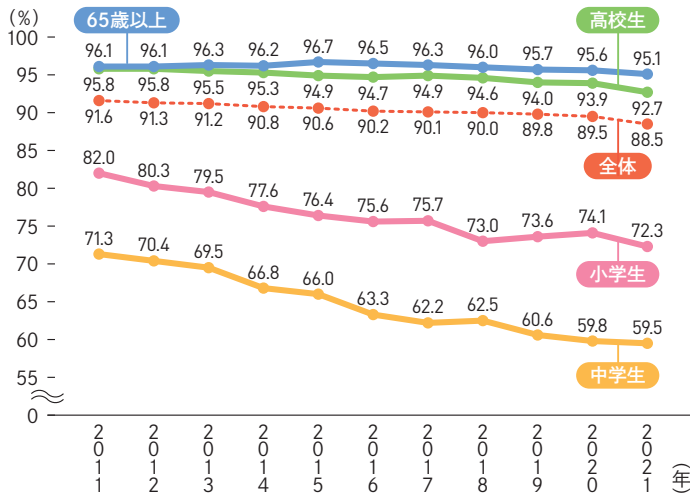
各校に策定が義務づけられている「危機管理マニュアル」には、登下校時の緊急事態や交

生徒を被害者にも加害者にもさせない！

- ✓ 交通安全教育を徹底し、生徒の交通安全への意識を高める。
- ✓ 自校の「危機管理マニュアル」の登下校に関する項目を改めて確認。
- ✓ 生徒に、自転車乗用時のヘルメットの着用を奨励。
- ✓ 自転車通学をしている生徒・保護者に、自転車保険等の加入を促す。

*1 交通安全対策基本法の規定により、内閣府の中央交通安全対策会議が策定する交通安全基本計画に基づき、関係各省が毎年、交通安全業務計画を策定することになっている。

図 自転車関連交通事故 ヘルメット非着用者率(死傷者)の推移



注)「ヘルメット非着用者率(死傷者)」とは、自転車乗用中の死傷者のうち、ヘルメット非着用者の割合をいう。

※警察庁交通局「令和3年における交通事故の発生状況等について」を基に編集部で作成。

交通事故への対応に関する事項が明記されていると思いますが、登下校中の安全管理で高校で特に重要な事項は、自転車事故についてです。警察庁の集計(*2)によると、高校生の自転車関連死亡・重傷事故の約6割が登下校中に発生し、約8割が事故時に一時不停止や安全不確認などの法令違反をしていました。2015年6月に道路交通法の一部が改正され、自転車乗用時に危険行為を繰り返した者に自転車運転者講習を受講させる制度がで

きました。危険行為としては、信号無視や通行禁止違反のほか、自転車乗用中のスマートフォンでの操作やヘッドフォンの使用など、15項目が定義されています。生徒を交通事故の被害者にも加害者にもさせないために、交通ルールの順守や自転車通学での注意点を伝える指導を改めて徹底したいところです。それでも、不測の事態として交通事故が起これることはあります。事故の被害をできるだけ抑えるために、2つの備えが挙げられます。1つは、自転車乗用時のヘルメット着用です。21年のデータ(*3)を見ると、自転車関連交通事故では、死者の約6割が頭部を損傷していて、ヘルメット着用の場合の致死率が0.35%に対し、非着用の場合は0.56%と、1.6倍でした。高校生の自転車乗用中の死傷者のうち、ヘルメット非着用者の割合が9割以上(図)であることから、ヘルメット着用は重要な安全対策だと言えます。自治体もそれを認識し、群馬県や愛知県、愛媛県などでは、自転車乗用時のヘルメット着用を努力義務とする条例を定めています。

自身の被害に加え、加害者となった場合に備えて、自転車保険等の加入を

もう1つは、自転車保険等への加入です。

自転車では、大きな事故にはならないと軽視するのは危険です。例えば、小学生の運転する自転車歩行者と正面衝突し、歩行者が意識不明となったケースや、高校生が自転車危険運転をしたために、会社員の乗った自転車と衝突し、会社員が重大な後遺障害を負ったケースがあります。いずれも加害者には、1億円近い賠償金の支払い命令が出されました。加害者が未成年であっても賠償責任は免れられず、場合によっては、保護者に賠償命令が下されることもあります。

交通ルールやマナーを守って適正に自転車を利用することを促すため、そして、自転車事故による損害から事故の当事者を守るため、自治体が条例によって自転車保険等への加入を義務・努力義務にする動きが全国的に広まっています。22年4月時点で、宮城県や秋田県、東京都などの30都府県が自転車保険等への加入を義務、北海道や青森県などが努力義務とする条例を制定しています(*4)。条例のある自治体では毎年度初めに、自転車通学をする生徒に対して自転車保険等の加入を促していると思います。加入は任意ですが、生徒が事故に遭い、治療が必要になった場合はもちろん、万が一、加害者となった場合にも備え、加入することが望ましいと、生徒や保護者に伝えるとよいでしょう。

*2 警察庁交通局「自転車関連事故に係る分析」(2019年4月)による。2014~18年のデータに基づく分析。

*3 警察庁交通局「令和3年における交通事故の発生状況等について」(2022年3月)による。

*4 国土交通省「自転車損害賠償責任保険等への加入促進」による。

生徒の学びや進路選択、その後の人生に影響を与えるような革新的な技術や価値観を「社会のトレンド」として解説します。

ひとしんせい・じんしんせい
人新世

人類の経済活動が、地球全体を覆い尽くした

18世紀後半の産業革命以降、人類の経済活動が地球に与えた影響は甚大で、その痕跡は地球全体を覆っています。都市はコンクリートなどの人工物で埋め尽くされ、大気は二酸化炭素の濃度が高まり、海はプラスチックごみなどによる汚染が深刻です。そうした状況を踏まえ、オランダの化学者パウ・クルツェン(*)は、地質学的に見て、地球は人類が地質や生態系に大きな影響を与える新たな時代に突入したとして、「人新世」という概念を提唱しました(図)。地質学の国際組織「国際地質科学連合」に公式に認定された時代区分ではありませんが、学術の世界では、今や自然科学を超えて、哲学や歴史学、経済学など、多様な分野で注目され、論じられている概念です。

「人新世」の概念は、先進国を中心とした資本主義社会に大きな課題を突きつけました。その最たるものが、気候変動問題です。人類が化石燃料を大量に使用し、二酸化炭素を排出し続けた結果、地球の平均気温は上昇し、過去に類を見ないような異常気象や自然災害が起きています。

新型コロナウイルスの感染拡大も、「人新世」の産物と言えるでしょう。人類が自然の奥深くに入り込んで未知のウイルスと接触したり、特定の家畜を大量生産したりすることにより、

ウイルスの繁殖や突然変異が起こりやすくなっているのです。

資本主義のシステムは、人類が起こした負担を巧妙に「外部」に押しつけることで成り立っている部分があります。例えば、先進国の便利で豊かな生活は、発展途上国における低賃金労働や環境破壊に支えられてきました。ところが、資本主義による経済活動が地球全体を覆いつくした結果、「外部」となる場所がなくなってきました。地球上のあらゆる地域で自然災害が起こりやすくなり、また、経済格差の深刻化など、資本主義の抱える問題が顕在化しているのです。

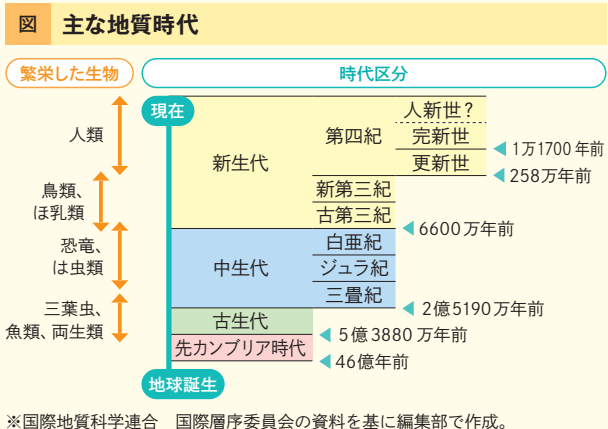
3.5%の人が本気で立ち上がれば、社会は変わる

人類が直面している危機的な状況を打開するためには、旧来の価値観を根本的に変えて、新たな社会を創出する必要があります。技術革新による解決が期待されていますが、「外部」に負担を押しつけて繁栄する構造が変わらないのであれば、根本的な解決にはならないはずで

すが、もし、節電や寄付をただで満足しているとしたら、問題の本質を理解することができていないとも言えません。どこまでも経済成長を追い求め、大量消費や長時間労働をあたり前とする価値観そのものを見つめ直す時期に来ているのではないのでしょうか。

そのような複雑で難しい問題を解決するためには、物事を批判的に捉え、判断するクリティカル・シンキングや、文理にかかわらず、幅広い視点から物事を捉えるリベラル・アーツが欠かせません。そして、問題が起きている現場に足を運び、そこで感じた問題意識を出発点に学びを広げ、自分ができることを考えて、行動につなげる姿勢を持つことも重要です。

今の若い世代は、人口が少なく、社会的に影響力を持ちにくい状況かもしれません。しかし、社会変革の事例の研究では、3.5%の人が本気で立ち上がると社会全体が大きく変わるというデータがあります。地球の行く末は、まさに私たち一人ひとりが本気で行動するか否かにかかっているのです。



解説者
 東京大学 大学院総合文化研究科 准教授
齋藤幸平 さいとう こうへい
 専門は経済思想・社会思想。マルクス経済学などをベースに新たな社会システムのあり方を提言。日本人初、歴代最年少で「ドイッチャー記念賞」を受賞。著書に『人新世の「資本論」』(集英社)等。

VIEWnext ONLINEでは、トレンド・ワードについて、誌面でお伝えしきれなかった内容を「学ぶ・働く・暮らす」の切り口で解説しています。右記の2次元コードからアクセスし、ご覧ください。

* フロンガスによるオゾン層破壊の研究で、1995年にノーベル化学賞を受賞。

For Teacher Section

教師個々の教科指導・進路指導に役立つ事例や情報を、先生方の思いを乗せてお届けする

P.40

お勧めの分掌 ▶

教務担当

担任

発問・課題設定をキーに見る

主体的・
対話的で
深い学び

授業実践

教科の見方・考え方を働かせる
問いや課題を通じて学びが深まる授業に迫る

国語 北海道遠軽高校 島田 亮

P.40

文章構成の工夫についての理解を深め、
物語に込められた寓意を読み取る

日本史 富山県立富山北部高校 嘉志摩有希

P.44

過去や現在との共通点や相違点を手がかりに、
歴史的事象を考察する問いを重ねる

P.48

お勧めの分掌 ▶

進路担当

学年団

担任

マイ・ストーリーを語る
生徒を育む進路指導

これまでの自分と将来の自分を、
大学での学びと結びつけて語る生徒を育む

3年次6月 受験意識・態勢の醸成
島根県・私立開星中学校・高校

夏季休業前まで将来をじっくり考え、
入試に自律して向かう姿勢を育む

P.50

お勧めの分掌 ▶

進路担当

学年団

担任

変化の激しい社会に飛び込む生徒に伴走
クローズアップ! 就職指導

社会や企業が変化する中、
就職活動を頑張る生徒をどう支援するか

望ましいマッチングに向けて
3年次7月・8月(求人票受け付け~校内選考)

調査と面談で就職観を揺さぶる
三重県立桑名北高校

P.52

お勧めの分掌 ▶

学年団



新課程初年度でも迷わない! 各月の指導のポイントをリストアップ

7月8月のポイント

学年団で新課程1期生の姿を見取り、
2学期の準備へ

主体的・
対話的で
深い学び

授業実践

国語

文章構成の工夫についての理解を深め、
物語に込められた寓意を読み取る

北海道遠軽高校 島田 亮

8:45 本時の学習内容を提示



前時に生徒は、『星の王子さま』の中で理解できなかった部分をワークシートに記入した。本時は、それを受けて、多くの生徒が理解できていなかった「王子とこだまとの対話」を取り上げ、その読解を深めていくと、島田先生は伝えた。

本時の概要

【対象／教科／科目】3年生／国語／現代文B
 【分野・単元】『星の王子さま』ほか（全8時間のうちの4時間目。P.43に本時の指導計画を掲載）
 【育成を目指す資質・能力】知識、技能、主体性
 【学習内容】前時までの『星の王子さま』の読み取りにおいて、多くの生徒が理解できていなかった「王子とこだまとの対話」を取り上げ、ペアワークやグループワークを通じて、表現や文章構成の工夫についての理解を深めることで、寓意を読み解いていった。

主 主体的な学び
 対 対話的な学び
 深 深い学び

9:12 ペアワーク、意見共有



再びペアで話し合い、発表した。「こだまはおうむ返しをしているだけだけれど、キツネは王子と意思疎通ができていた」と言う生徒に、島田先生が、「なぜ、そう思うの？」と尋ねると、別の生徒が「主語が変わっているから」と発言。先生は「その通りだね」と、内容を整理する板書を行った。

しまだ・りょう 教職歴11年。同校に赴任して7年目。進路指導部長。国語科。大学院では文学を専攻。深く読み解く力を養うことを目指している。

学校概要

◎2011年度から単位制を導入。「遠高で『ホンモノ』を目指そう」をキャッチフレーズに、「探究する」ことを中心に据えた学習活動を展開。22年度は、重点目標として「学び方の転換」「論理的思考様式の育成」「これからの社会を創る市民を養成」の3つのTRYを掲げる。21年度に吹奏楽局や陸上競技部が全国大会に出場した。

◎設立 昭和3（1928）年

◎形態 全日制・定時制／普通科／共学

◎生徒数 1学年約170人（全日制）

◎2022年度入試合格実績（現役のみ） 国公立大は、小樽商科大、北見工業大、北海道教育大、室蘭工業大、茨城大、釧路公立大、公立千歳科学技術大、名寄市立大、青森県立保健大、都留文科大に24人が合格。私立大は、札幌保健医療大、北海道医療大、駒澤大、順天堂大、成城大、専修大、日本大、神奈川大などに延べ79人が合格。



9:05 ペアで話し合った内容を発表



ペアで話し合った内容を発表。ある生徒は、「こだまは王子の言葉を返すだけなのに対して、キツネは王子に話しかけている」と指摘。すると島田先生は、「2つの対話は似ているけれども、違う点もあるようだね。どこが違うのか、もう少しペアで考えてみよう」と問いかけた。

8:55 対話形式の音読、ペアワーク



「王子とこだまとの対話」について、まずは疑問点を明確にするために、島田先生が王子役、2人の生徒がこだま役とナレーター役となり、音読した。続いて、「王子とキツネとの対話」を音読し、こだまとの対話とキツネとの対話にどのような違いがあるのかを、席が隣同士の生徒で話し合った。

本時のキー課題

9:25 グループワーク、振り返り



島田先生は各グループを回りながら、「言葉を繰り返す意味は何だろう？」などと、寓意を読み取るためのヒントを投げかけた。加えて、「その意見は最高だね」といった、生徒の発言を肯定する声かけを繰り返した。最後に、グループで話し合った内容をワークシートに記入した。

9:18 グループで寓意を考察



島田先生は、「なぜ、作者はこだまの話を出したのか、寓意を読み取ろう」と、課題を提示。生徒は、4～5人のグループを組み、話し合った。あるグループは、「相手の言葉を受け止めるのが、本当のコミュニケーションだと思う」と気づきを述べ合い、「対話の重要性」が寓意だと読み取っていた。

●私が目指す授業

授業展開や問いを工夫し、教えるのではなく、気づかせる

大学院を修了して国語科の教師になった頃は、論理的な読み方を体系立てて教えることに力を入れていました。しかし、私がどのように言葉を尽くしても、生徒が作品を深く理解できていないという手応えを感じられませんでした。実際、センター試験の現代文で出題された、表現や文章構成の工夫を根拠に作者が込めた思いを読み取る問題などに、多くの生徒が答えられませんでした。

そこで、作者が作品中に散りばめた表現や文章構成の工夫に、生徒が気づけるような授業展開や問いを考えることにしました。「何か作者の工夫がありそうだけれど、その意図や効果に分からない」と、生徒が引っかかりを覚えた描写を題材として、私は、それを読解するためのヒントを提示することなどに徹しています。生徒が、授業を通じて表現や文章構成の重要性を理解することで、自分でも思いや意見を的確に伝えようと、それらを工夫するようになることを目指しています。

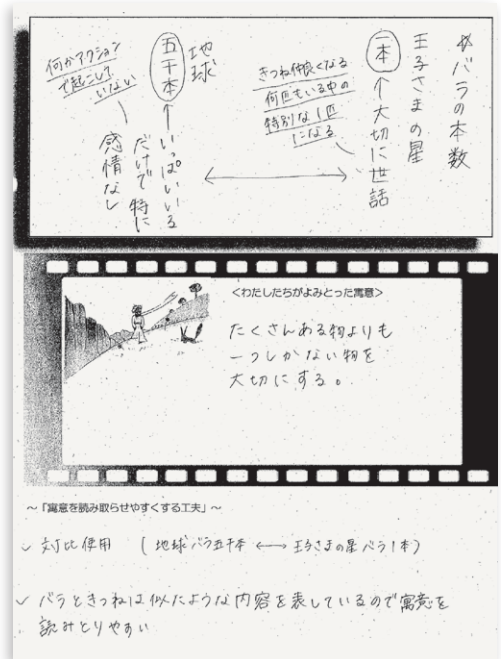
●私の発問・課題設定の観点

生徒が読解できなかった部分を取り上げて、理解を深める

2022年度からは、観点別学習状況の評価を適切に行うため、国語科の3人で、教材や進度、評価の方法・基準を統一して授業を行っています(COLUMN参照)。『星の王子さま』では、物語から根拠をもって寓意を読み取り、それを生徒間で共有することで、自分では気づかなかったことを知るとともに、論理的思考力や表現力を育もうと3人で考えました。教材等は統一しましたが、寓意をどう読み取るのかは、各教師が考えました。私は、最初に「スイッチ・マン」の話を取り上げ、電車に乗っている大人と子どもの対比関係から、大人は大事なものを見失っているが、子どもは好奇心旺盛だといった寓意が読み取れると解説しました。

次に、グループごとに場面を選んで寓意を読み取る活動を行いました。あるグループは、火山とバラとキツネの話から、地球のバラ5000本と、王子の星の1本のバラという対比を根拠に、「たくさんあるものよりも、1つしかないものが大切」といった寓意を読み取っていました(図)。

図 生徒が読み取った寓意(例)



※学校資料をそのまま掲載。

好奇心や学ぶ姿勢につながる「なぜ？」を引き出す

授業では、「なぜ、このような表現にしたのかな?」「この表現に対応する場面は何だろ?」などと問いかけながら、生徒たちとやり取りする中で、読解を深められるようにして

そして本時では、前時に多くの生徒が読み取れなかった「王子とこだまとの対話」を考察することにした。前時で理解できなかった寓意を、本時の課題に取り組むことで理解できるようになると、生徒の期待を高めることが、主体的な思考を促すための仕かけです。

本時では、王子とこだま、王子とキツネとの対話には、応答の仕方や主語の違いがあることを、生徒が気づけるような工夫をしました。私と生徒との対話形式の音読では、気づいてほしい部分を強調して読み、板書では、最も違いが表れている部分を抜き出しました。すると、その違いにある生徒が気づきました。そこで、「似ているようで、なぜ、違っ

か、作者の意図を考えてみよう」と発問すると、意欲的に自分の考えを発言する姿が見られました。そのようにして、文章構成の工夫を読み取れるようになれば、どんな文章も読解できるようになると考えています。難解な評論でも、「ここは具体例だから、さっと流している」「ここは筆者が強調したいところなので、反語が用いられている」などと、根拠をもって筆者の意図を捉えることができるようになるでしょう。

生徒が記入したワークシートや発表資料等は、「コピーしてクラス全体に配布し、自分がよかったと思う他者の意見について感想を述べ合う活動を行うこと」もあります。生徒は、友人とのコミュニケーションの中で気づきを得た時に、深い理解に至ると思うからです。「ここといった意見を面白いと感じるのか」「ここまでの表現や言葉があるのか」といった気づきを得ることを期待しています。

次時以降は、『夢をかなえるゾウ』『金持ち父さん 貧乏父さん』を読み、本時と同じように、寓意を読み取る活動を行い、単元末には、生徒一人ひとりが寓話を創作する予定です。学習評価は、国語科で作成したルーブリックを使って行っています。「知

COLUMN

組織的な授業実践を実現するために

国語科主任 鈴木涼太先生



主任として音頭を取り、2022年度からは、国語科全体で教材等を統一して授業を行うことにしました。以前から、定期考査の点数のみで評価を行うのではなく、生徒の普段の取り組みを評価の対象にしたいという思いがありました。そこで、新学習指導要領を見据え、2021年度、私と同学年の担当の2人で、教材や進度、評価方法を統一して授業を行ったところ、授業の展開は各自の個性が発揮されつつ、ルーブリックを運用することで、普段の取り組みを適切に評価することができるようになり、また、教師間の評価がぶれないことが分かりました。

最大の利点は、他の教師の指導が見えるようになったことです。これまで、授業は教師個々に任されていたため、よい教材や発問を共有しにくいもどかしさがありました。ワークシートや評価基準をそろえたことで、おのずと授業内容について話す機会が増え、指導ノウハウの共有が一気に進みました。よいものはどんどん自分の授業に取り入れて、生徒に還元していきたいと思います。

●成果と展望
コミュニケーション力を育む、豊かな言語環境を模索

識・技能」は、定期考査の文章読解などの問題で、「思考・判断・表現」は、単元の最後に課すテスト、またはレポートで、「主体的に学習に取り組む態度」は、ワークシートや振り返りシートなどで見取って、評価しています。

以上のような授業を続けてきた結果、生徒は文章構成の工夫に触れることを楽しむようになったと感じています。学習意欲が高まり、知識・

技能が定着しやすくなっているようです。また、理解できないことを「分からない」と言えたり、根拠を示しながら自分の意見を説明したりする生徒も増えていきます。

インターネット上には、人を傷つける言葉が氾濫しています。授業では、対話をする中で自分の言葉が他者にどのように響くのかを感じ取り、安易に強い言葉や批判的な表現を使うことの危険性を知ること、重要な学びです。生徒にコミュニケーション力が育まれる豊かな言語環境を提供するにはどうすればよいのかも、模索していきたいと思っています。

単元の指導計画

【教科・科目】国語・現代文B 【分野・単元】小説 【テーマ・作品】『星の王子さま』『夢をかなえるゾウ』『金持ち父さん 貧乏父さん』
【設定時数】全8時間（本時は4時間目） 【単元目標】言葉の働きを考える（寓意）

時数	学習内容	身につけさせたい 資質・能力	授業の流れ	教師の配慮	評価 方法
1	・授業のオリエンテーション ・『星の王子さま』の通読	言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解することができる。 【知識、技能、主体性】	①授業の進め方を説明。 ②『星の王子さま』を通読する。	【深い学び】言葉が持つ力について、短歌で例示する。	
2	・『星の王子さま』の「スイッチ・マン」の読解		①『星の王子さま』の「スイッチ・マン」の話を個人で読む。 ②個人で読解した内容をグループで共有する。	【深い学び】読み取った寓意がどのような要素と結びついているのかを理解させる。	
4	・『星の王子さま』の読解を通じて、寓意の効果を高めている表現の工夫を追究	言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解することができる。 【知識、技能、主体性】	①多くの生徒が理解できていなかった部分を取り上げ、ペアで疑問点を話し合う。 ②ペアで話し合った内容を発表。 ③該当の部分から読み取れる寓意について、グループで考察する。	【深い学び】生徒とやり取りしながら発問を繰り返して、文章を対比させたり、別の表現を持ち出したりして、考えが深まるようにする。	ワークシート
5	・『夢をかなえるゾウ』を読み、グループワークで寓意を読み取る	他の作品と比較することで、文体の特徴や効果についての自身の考えが持て、深く考察することができる。 【思考力、判断力、表現力】	①『夢をかなえるゾウ』を読む。 ②グループごとに好きな部分を取り上げ、寓意を読み取る。 ③グループで話し合った内容を発表する。	【主体的な学び】グループで相互評価を行う。【対話的な学び】正解は1つではないことを繰り返し伝え、寓意を読み取った根拠をグループ内で説明し合うよう促す。	ワークシート

※島田先生作成の単元の指導計画を基に編集部で作成。単元の指導計画の全8時間分は、ウェブサイト『VIEW next ONLINE』(https://view-next.benesse.jp/) からダウンロードできます。『TOP →学校教育情報誌『VIEW next』 →高校向けバックナンバー』をご覧ください。

主体的・
対話的で
深い学び

授業実践

日本史

過去や現在との共通点や相違点を手がかりに、
歴史的事象を考察する問いを重ねる

富山県立富山北部高校 嘉志摩有希

本時の概要

〔対象／教科／科目〕3年生／地理歴史／日本史B
〔分野・単元〕幕府の衰退と近代への道（本時は、全7時間のうちの4時間目。P.47に本時の指導計画を掲載）
〔育成を目指す資質・能力〕知識、思考力、表現力、主体性
〔学習内容〕前時までに学習した享保の改革、寛政の改革に続けて、本時は天保の改革について学習。歴史的事象を踏まえて、一般市民が困った時に国がどのような対策をとる必要があるのかを考察した。

主 主体的な学び
対 対話的な学び
深 深い学び

13:20 問いに答えながら前時を振り返る



授業の冒頭、嘉志摩先生が、前時の授業の内容を振り返るための問いを生徒に投げかけると、生徒は自分のノートを見ながら、隣の席の生徒と答えを言い合った。前時の授業の振り返りは、知識を定着させるために毎時間行っている。

13:38 現在に置き換えて考える



生徒の解答を投影し、「改革を行わなければならないのは、国が貧乏になった時という解答だけれど、国が貧乏になるのはどんな時？」などと、生徒に問いかけていった。さらに、「現代を生きる私たちは、お金がなくなったら、どうする？」と、自分に引きつけて考えることを求めた。

かしま・ゆうき 教職歴6年。同校に赴任して7年目。地理歴史・公民科。3学年担任。時代背景とともに歴史的事象を理解し、その事象が過去や現代の社会とどのような共通点・相違点を持つのかを考察する力を育む授業を追究している。

学校概要

◎富山市の北部地域に位置し、創立100年を超える歴史と伝統を誇る総合制高校。3学科・1コースで構成され、生徒が一人ひとり個性を磨き、相互に尊重して高め合っている。水球部、剣道部など、全国大会の出場経験を持つ部が多く、生徒会によるボランティア活動を始めとする、地域と連携した活動も盛ん。

◎設立 1916（大正5年）年

◎形態 全日制／普通科、普通科・体育コース、くすり・バイオ科、情報デザイン科／共学 ◎生徒数 1学年約240人

◎2021年度進路実績（現役のみ） 国公立大は、富山大、富山県立大、都留文科大、諏訪東京理科大、長野大、県立広島大などに17人が合格。私立大は、専修大、立命館大などに延べ125人が合格。短大・専門学校進学71人。就職30人。



13:30 改革が行われる理由を各自考察



主
対
深

本時の授業のキーとなる問いとして、「改革を行わなければならないのはどんな時か」「当時の状況から考えて、天保の改革を行わなければいけなかった理由は」の2つを「Classi」(*)に投稿。生徒はまず、1人で考え、分からない場合は周囲と相談して、2つの問いの答えを入力した。

13:23 本時に関連する内容を深く振り返る



主
対
深

江戸時代の三大改革の共通点や相違点を理解するために、黒板の4分の1を、享保の改革、寛政の改革を振り返るスペースに、残りを、天保の改革について考えるスペースとした。そして、享保・寛政の改革に関連する問いを再び生徒に投げかけ、生徒は隣の席の生徒と話し合いながら答えていった。

14:05 授業の振り返りを入力する



主
対
深

授業の最後に、生徒は振り返りを「Classi」に入力。生徒は、本時の授業で学んだことや、これからの生活で生かせようと思ったこと、授業に関する質問など、自分を書きたいことを入力した (P.46 図)。入力後、隣の席の生徒と互いの振り返りを共有して、本時の授業は終了した。

13:55 重要事項を板書で整理する



主
対
深

人返しなどの農村対策や節約令について、三大改革における共通点と相違点を整理した。説明の途中、嘉志摩先生は、「出稼ぎに行く人が多くなると、幕府はどんな影響を受けることになる？」などと、生徒に何度も問いかけ、生徒同士で話し合うことを求めた。

● 私が目指す授業
歴史を通じて
未来を予測する力を育む

高校の教壇に立って驚いたのは、「歴史は暗記科目なので苦手です」と言う生徒が少なくなりました。定期考査前に「何を覚えればよいですか」と聞いてくる生徒もいて、歴史の学習が覚えることにとどまらず、学ぼうと意欲を感じました。歴史を学ぶ意義は、失敗も含めて過去から学び、それをヒントに未来を予測したり、創造したりする力を身につけることにあります。生徒が、歴史的事象を過去や現在と比較しながら考えるような授業を行うことで、生徒のその後の人生の幅を広げたいと考えました。

日本史は覚えることが多い科目です。教師も覚えさせるための授業を行い、語句補充形式の問題を出しがちです。そうならないよう、私は授業スタイルを変え、定期考査などでも記述式の問題を出すようにして、「覚えるだけでは駄目」と、生徒に理解させることにしました。

私の授業では、生徒たちはよく話し合います。過去に学んだ内容につ

* 株式会社ベネッセホールディングスとソフトバンク株式会社の合弁会社である Classi 株式会社が提供する、学校教育での ICT 活用を総合的に支援するサービス。

いて話し合うこともありますが、現代の事象について考えを語り合うこともありません。たくさん話し合う中で、歴史のつながりや現代の事象との関係が見えてくると、生徒は自ら進んで資料集などを読み込むようになり、理解の速度が上がっていきます。

授業における達成感も大切にしています。毎回の授業で、ペアによる前時の授業内容の振り返りをしたり、単元のポイントを説明し合ったりすることで、家庭学習の習慣が十分に定着していない生徒でも、授業の中で知識を習得し、定期考査や模範試験などで成果を収めることができる授業を目指しています。

● **私の発問・課題設定の観点**
「自分事」にさせるために、
「自分なら？」と、問いを重ねる

1つの歴史的事象を点で捉えるのではなく、その事象の背景やそれによる影響、次の出来事との関係を理解し、現代を生きる私たちに必要な視点や考え方を考察することを、授業では大切にしています。今回の単元では、飢饉が起るとなぜ改革が行われるのか、3つの改革がどのよ

うに関連しているのかといった点を見ていく中で、「改革を行わなければならないのはどんな時か」について考えさせたいと思いました。現代の日本では、広範な地域を飢饉が襲う可能性は低いけれども、現代を生きる私たちにも、「困った」と感じることは少なからずあります。そのような時、国はどのような対策をとるべきなのか、生徒にも社会の一員として考えさせたかったです。

本時の授業でも、私は生徒に何度も「もしも、みんなが働いていて職を失ったら、その時、国にはどんな支援を期待する？」などと問いかけ、生徒同士で話し合わせました。もちろん、自分に引きつけて考えにくい題材もあります。本時も、米が当時の経済の中でどのような役割を担っていたのかを知らなければ、今の自分に引きつけて考えることは難しいでしょう。また、雇用されたことのない生徒には、職を失うことの恐ろしさを、真に理解することはできないかもしれません。私自身の社会人経験も交えて問いを補足し、生徒が少しでも自分事として歴史的事象を捉えられるように努めています。

日本史の授業で身につけた、過去や現在との共通点や相違点を見つけ

☒ **過去や現在との共通点や相違点を手がかりに考察させる**
「天保の改革」

	享保の改革	寛政の改革	天保の改革
推進者	徳川吉宗	松平定信	水野忠邦
改革のきっかけ(原因)	享保の飢饉(害虫)	天明の飢饉(東北の冷害)	天保の飢饉(冷害・大洪水)
財源	米	米	米
農村対策	-	旧里帰農令(帰村奨励)	人返し(強制帰村)

本日のテーマ

嘉志摩先生の問い

改革を行わなければならないのはどんな時か？今の時代で考えてみると？

▶ 天保と現在の共通点

享保の改革と寛政の改革で、幕府に必要なものは？

▶ 天保と過去(享保・寛政)との共通点

生徒の授業後の振り返りの声

天保の改革では、米を作る担い手である農民に対してどんな政策を行ったと思う？ 寛政の改革をヒントにすると……？

▶ 天保と過去(寛政)との共通点・相違点

- 水野忠邦は、徳川吉宗や松平定信の改革を目指していたそうだが、松平定信は厳しすぎて百姓一揆や打ちこわしが起きているので、天保の改革も民衆の不満が高まるんじゃないかと思った。
- 水野忠邦は松平定信の政策をまねて、松平定信は徳川吉宗の政策をまねたことから、歴史からよかったことを学んで未来に生かすのが、歴史を学ぶ意味なのかなと思った。私も社会に出た時に、前例から学ぼうと思う。
- 水野忠邦が帰村を奨励から強制にしたように、過去から学ぶことが必要だと思った。

● **成果と展望**

学習内容ではなく、
気づきを言語化する生徒が増えた

る力は、例えば、卒業生の先輩の話や聞いて、先輩のように高校生活の中で成長していくためにはどうすればよいかを考える際にも役に立ちます。生徒に話しています。今年度は3年生の担任もしていますから、自分の進路や生き方を考える力を育てる授業を、特に心がけています。

3年前から毎時間、「Class」を活用して授業の振り返りを行っています。最初のうちは板書の内容を要約しているだけの生徒もいましたが、

※学校資料を基に編集部で作成。

今では多くの生徒が自分なりの考えを書いたり、分からないことを質問したりしています。「今日はこんな発見をしました」と、私の想定を超えるような気づきを書く生徒も多々あります。また、「今日は現代の問題についても考えました」「新聞で読んだ記事のことを思い出しました」といった生徒の言葉をみると、歴史を今につなげようとしているんだなと、うれしく思います。そうした振り返りは、積極的に他の生徒にも共有しています。

日本史は確かに覚えることが多い科目ですが、仮に今日学んだことを数か月後に忘れたとしても、「改革を行わなければならないのはどんな時か」について考えた経験を生かして、次の歴史的事象を深く考察できるようにしてほしいと思います。

授業中のペア活動などで見せる口頭での説明力に比べて、理路整然と記述する力が十分ではないことが、今後の課題です。定期考査の記述式の問題や、レポートなどのパフォーマンス課題をもっと充実させたいです。「Classi」での振り返りが記述力の向上に結びつく仕組みを考えていきたいと思っています。

単元の指導計画

【教科・科目】地理歴史・日本史B 【分野・単元】幕府の衰退と近代への道 【テーマ・作品】天保の改革 【設定時数】全7時間（本時は4時間目） 【単元目標】幕府の衰退の過程を理解し、その後の影響を考察する。

時数	学習内容	身につけさせたい 資質・能力	授業の流れ	教師の配慮	評価方法
1	寛政の改革 ①	<ul style="list-style-type: none"> 飢饉により、主要都市部での打ちこわしが相次ぐ中で、当時の幕府がどのような対策をとったのかを考察する。 天明の打ちこわしを機に田沼政権が倒れ、松平定信による改革が始まったことを理解する。 松平定信の政策は、享保の改革を行った祖父である徳川吉宗の政策と似ており、幕府の財政を立て直すために農村復興を行ったり、都市政策を行ったりしたことを理解する。 <p>【知識、思考力、表現力、主体性】</p>	<ol style="list-style-type: none"> ペアでノートを見ながら前時の復習を行う。 天明の飢饉により、社会が深刻な状況になっていることを理解し、人口が減少することで年貢の納入が難しくなることに気づく。 松平定信の祖父は徳川吉宗であることから、農業を重視した政策を行ったことを理解する。 「Classi」に本時の振り返りを入力し、ペアで共有する。 	<p>【主体的な学び】松平定信は祖父である徳川吉宗を理想としていることを理解させ、享保の改革とのつながりを考察させる。</p> <p>【対話的な学び】ペアで話す時間を多くつくり、必ずそれぞれの意見を伝えられる場をつくる。</p> <p>【深い学び】享保の改革とのつながりを意識させることで、農村対策を行うことが必要不可欠であることを理解させ、現代の社会との違いに気づかせる。</p>	「Classi」での振り返り
2	寛政の改革 ②	<ul style="list-style-type: none"> 幕府が財政難になるということは、旗本・御家人たちの生活も苦しくなっていることを理解する。 当時辛辣な政治風刺の黄表紙や好色の洒落本が大流行していたことから、幕府が出版統制令を出し、取り締まったことを理解する。 松平定信のような改革を現代で行った場合、どのようなメリット・デメリットがあるのかを考察する。 <p>【知識、思考力、表現力、主体性】</p>	<ol style="list-style-type: none"> ペアでノートを見ながら前時の復習を行う。 旗本・御家人対策として、棄捐令を出したことを理解し、幕府を批判させないために、思想・言論統制を行ったことを理解する。 松平定信の政策を現代で行った場合、どのようなメリット・デメリットがあるか、また、そこから学べることを考察する。 「Classi」に本時の振り返りを入力し、ペアで共有する。 	<p>【主体的な学び】現代の社会で思想・言論統制が行われたら、どう思うかを考察させる。</p> <p>【対話的な学び】ペアで話す時間を多くつくり、必ずそれぞれの意見を伝えられる場をつくる。</p> <p>【深い学び】幕府を批判させないための言論・思想統制がかえって人々に不満を持たせることになったことを理解させる。</p>	
4	天保の改革 ①	<ul style="list-style-type: none"> どの時代でも改革がなぜ行われるのかを考察し、天保の飢饉による財政難、モリソン号事件による外交政策の失敗などから天保の改革が行われたことに気づく。 享保の改革や寛政の改革と似ている点があることに気づく。 天保の改革で行われた儉約令や人返し法の政策を理解する。 <p>【知識、思考力、表現力、主体性】</p>	<ol style="list-style-type: none"> ペアでノートを見ながら前時の復習を行う。 享保の改革、田沼政治、寛政の改革が行われた理由から、天保の改革を推し進めた水野忠邦が天保の飢饉の最中に老中になったことを理解し、改革を行わなければならない理由を考察する。 天保の飢饉による財政難により、儉約令や農村対策が行われたことを理解する。 「Classi」に本時の振り返りを入力し、ペアで共有する。 	<p>【主体的な学び】「何かに困っているから改革が行われる」ということに気づかせ、当時は何に対して誰が困っていたのかを自分の言葉で説明させる。</p> <p>【対話的な学び】ペアで話す時間を多くつくり、必ずそれぞれの意見を伝えられる場をつくる。</p> <p>【深い学び】改革が行われる理由を、現代と照らし合わせながら話し合わせ、当時の時代背景から必要な政策を考察させる。</p>	
7	江戸の改革のまとめ②	<ul style="list-style-type: none"> 江戸の改革について理解し、どのような影響を与えたかを考察する。 互いに話し合いながら、現代の社会に必要な視点・考え方を考察する。 <p>【思考力、表現力、主体性、協働性】</p>	<ol style="list-style-type: none"> ペアでノートを見ながら前時の復習を行う。 現代の社会に必要な改革を考察し、グループで話し合う。 グループでまとまった意見を発表する。 「Classi」に本時の振り返りを入力し、ペアで共有する。 	<p>【主体的な学び】自分が困っていることを自分の言葉で説明させる。</p> <p>【対話的な学び】4人グループをつくり、それぞれの意見を必ず伝えさせるために、順番に発表させる。</p> <p>【深い学び】どの時代にも必ず困っている人はいるが、立場が違えば対策も変化することを理解させる。</p>	

*嘉志摩先生作成の単元の指導計画を基に編集部で作成。単元の指導計画の全7時間分は、ウェブサイト「VIEW next ONLINE」(https://view-next.benesse.jp/) からダウンロードできます。「TOP → 学校教育情報誌『VIEW next』 → 高校向けバックナンバー」をご覧ください。

「マイ・ストーリー」を描き、それを語れる力が、これからの大学入試で希望進路を実現するために必要とされることを検証し、そうした力を生徒に育む教師の指導や支援のあり方・方法を、実践事例を通じてお伝えしたVIEWnext高校版2021年8月号・特集はこちら▶



「マイ・ストーリー」とは、生徒一人ひとりの「自分のこれまでの学びや活動、その成果や結果に至るまでのプロセス、これからの展望」を指す。総合型選抜や学校推薦型選抜（以下、推薦型選抜）を始めとするこれからの大学入試に向けて、「マイ・ストーリー」を描き、それを語れる力を生徒に育む実践事例を紹介する。

3年次6月

受験意識・態勢の醸成

夏季休業前まで将来をじっくり考え、入試に自律して向かう姿勢を育む

島根県・私立開星中学校・高校

マイ・ストーリー
3年次6月頃
の課題

- ・部活動を引退して改めて進路と向き合う生徒に、大学で学びたいことを明確化させる
- ・入試までに自分がすべきことを把握させ、見通しを持って実行できるようにさせる

関心のある社会課題に関する論文を読み、将来像を具体化

全国レベルの部活動が多い島根県・私立開星中学校・高校では、生徒の多くが、部活動を引退する6月頃から受験勉強を本格化させる。その時に改めて自分の進路と向き合い、悩んで相談に来る生徒に、大田毅先生は、自分の志望分野や将来像、強み・弱みを整理する「志望理由書の設計図」（左図。以下、設計図）を書くよう提案し、自己管理の第一歩として、自身の立ち位置を把握できるようにしている。その上で、入試本番までの段取り

を示すことにより、今後の見通しを持たせ、自分がすべきことを考えられるように導いている。そして、生徒に「合格まで一緒に頑張ろう」と言って励まし、マネジメントの姿勢で支援する。そうした背景には、5年前まで大学教員だった大田先生の経験がある。「大学教員は、学生には自分で研究を進めてほしいと考えています。そのため、推薦型選抜では、入学後の目標が明確か、その目標の達成に向けて取り組みたいことの筋道が成り立っているか、自律して行動する資質・能力があるかなどを見ていました。そこで、推薦型選抜志望者には、自分の志望を他者に論

理的に伝えられるようにすること、自己管理能力を育むことが重要だと考えました」

設計図を基に「マイ・ストーリー」を描く際には、論文を活用する。例えば、医療分野を志望する生徒に、「今、日本の医療が抱える課題は何だろう」と問いかけ、在宅看護や救急医療など、生徒が挙げた課題に関する論文を6本程度読むように伝える。大田先生は、論文の検索方法を説明するが、実際に探すのは生徒自身で、論文を読んで考えたことは期日までに報告させるようにしている。大田先生が、高校生が読みやすい論文を探して渡すこともあるが、それは2本程度にとどめている。

「論文を読めば、その分野の今の課題や大学の研究の成果を詳しく知ることができ、生徒が将来像を描く上で有力な情報になります。また、研究機関である大学を志望する以上、研究者としての意識を持つてほしいと思います。論文は生徒自身に探してもらっています」大田先生は、そこまでの過程に約1か月間をかけ、生徒はじっくり「マイ・ストーリー」を練ってから志望理由書の作成に入る。いきなり書き始めると、内容が表面的で、書き直すうちに生徒のやりたいことが変わり、その軌道修正にかえて時間がかかるからだ。「論文等で志望分野に関する情報を蓄え、考えを深めていくうちに、生徒は自律していき、私が何も言わなくても、志望理由書ができたから添削してほしいと見せに来ますし、書けなければ相談に来ます」

支援で気をつけている点

- ・生徒がまず、自身の状況を把握できるようにする（「志望理由書の設計図」の記入）
- ・生徒が相談に来てから約1か月間は、生徒が自分を知り、志望大学・学部・学科を知る期間と捉える（将来像や大学で取り組みたいことが具体化しないうちに、志望理由書を書き始めない）
- ・生徒に課題を出すのではなく、生徒が入試までにすべきことと、その期日を考えられるよう支援。入試本番までをマネジメントするというスタンスで接する
- ・生徒に否定的な言葉は投げかけない。生徒が相談に来た時期が8月であっても、「ぎりぎり間に合った。今から一緒に頑張ろう」などと、意欲を喚起する

「志望理由書の設計図」の記入項目

- ①その学部（学科・コース）を希望する理由
- ②その大学（学校）を希望する理由。その大学（学校）でなければいけない理由。アカデミック、アドミッション、カリキュラム、ディプロマの各ポリシー
- ③学習したい内容（興味を持った学修内容や大学教員の研究）
- ④将来のビジョン
- ⑤将来のビジョンと学習したい内容が重なる点
- ⑥自己PR。長所（自分が思う範囲でOK）が何か。同級生、先輩（教師や自分より年上の大人）、後輩（自分より年下）から、それぞれどのように評価してもらえていると思うか
- ⑦高校時代で一番頑張ったこと（経験）
- ⑧その経験の中で、身についたこと（向上したこと）
- ⑨この1年間で気になったニュース2つ

※学校資料と取材を基に編集部で作成。

基本の200字に肉づけする 方法で、具体的な志望理由書に

志望理由書は、まず200字で、自身の体験に基づきながら、大学で取り組みたいことと、それに取り組みたい理由を、将来像とのつながりとともに書く。その上で、志望校が指定する文字数に合うよう、具体例で肉づけし、表現を洗練させていく。

「具体例は、自分の思いと、それを実現するための行動とセットで書く」とよいと伝えていきます。例えば、地域活性化に向けて、高齢者にとっては持続可能で、若者にとっては取り組みやすい農業を実現したいと考えた生徒は、スマート農業（*）に着目し、それを地域に適合した形にするため、農業の環境整備を研究したいと、志望理由書や面接でアピールして、島根大学生物資源科学部に合格しました」

大田先生は生徒との対話で、「どう考えたのか」「なぜそう思ったのか」と聞き、生徒が思いや理由を具体化できるようにしている。志望理由書の添削でも、「どっという意味？」ではなく、「ここは分かるけれども、この部分は伝わりにくい」などと、改善点を具体的に示す。

9月からは、面接で伝える内容を志望理由書を基に練っていく。明確化した将来像と蓄えた専門知識を組み合わせることで、生徒は自分の考えを堂々と述べられるようになるという。

大田先生が支援した20年度の3年生は、筑波大学や広島大学の推薦型選抜の合格者を同校で初めて出し、国公立大学に過去最高の10人、4年制大学全体では110人が合格した。「21年度からは、私個人で行っていた『マイストーリー』を軸とした進路指導を全校で行おうと、3年間の計画を立てました。今後も、試行錯誤をしながら改革を進めていきます」



高校2年部学年主任
学習進路部
大田 毅
おおた・たけし

教職歴4年。同校に赴任して5年目。理工系学部で10年間、助教等を勤めた後、高校教師に転身。

学校概要

- ◎設立 1924（大正13）年
- ◎形態 全日制／普通科／共学
- ◎生徒数 1学年約150人
- ◎2022年度入試合格実績（現浪計） 国公立大は、鳥取大、島根大、愛媛大、横浜市立大、島根県立大に7人が合格。私立大は、東海大、東洋大、日本大、立教大、京都産業大、立命館大、関西大、近畿大、甲南大、広島修道大などに延べ74人が合格。

開星中学校・高校が行う生徒を自律に導く進路指導の詳細と、現在推進中の進路指導改革を、ウェブサイトで紹介します。

VIEWnext ONLINE



* ロボット技術やICTを活用して、農作業の省力化・精密化、高品質生産の実現などを推進している新たな農業のこと。

クローズアップ! 就職指導

望ましいマッチングに向けて

3年次7月・8月
(求人票受け付け～校内選考)

求人票公開から 約2か月間で 就職観を醸成

就職指導に関する校務がピークを迎えるのは、企業の求人票が公開される7月1日から、就職試験が始まる9月16日までの間だ。中でも、多くの学校で7月下旬から8月上旬に行われる校内選考までの期間は、生徒の志望を確認し、企業とマッチングさせていく重要な時期だ。

求人票の公開から志望する企業の決定、就職試験までは約2か月と短期間であるため、生徒の就職観や企業選びの観点が十分に醸成されていないことも多い。就職後のミスマッチを防ぐためにも、1年次からの進路意識の向上など、就職指導の前倒しが求められるが、現実には、3年次7月前後の指導の充実が現場にとっての直近の課題だ。そこで今号では、三重県立桑名北高校が3年次7月前後に複数回実施する「就職希望予備調査」などを通じた、進路意識を深め、生徒を育てる取り組みについて取り上げる。

実践事例

調査と面談で就職観を揺さぶる 三重県立桑名北高校

三重県立桑名北高校では、求人票の公開後、生徒が三者面談などを経て、志望する企業を選定（就職希望本登録）する時期を8月上旬としている（図1）。7月末に志望企業を選定する学校もあるが、進路指導部代表の井上和也先生は、「教師との面談や応募前職場見学を通して、生徒の就職観を揺さぶることが大切。その上で志望を固めさせるとなると、8月上旬まで時間が必要」と説明する。

生徒の志望を深掘りするツールの1つが、就職希望予備調査だ。同調査では、志望する企業名を5社書かせるが、6月（求人票公開前）のため、前年度の求人情報を基に考えさせる。求人票公開後の7月上旬（図2）、応募前職場見学と三者面談後の7月下旬の計3回実施した後、8月の就職希望本登録に至る。毎回の調査後に、生徒は担任や進路指導部の教師との面談に臨む。6月、7月前半の調査時点では、業種や勤務地を問わず大手企業の名前を並べる生徒や1、2社しか企業名が挙がらない生徒もいるが、複数回の面談を通して視野が

図1 3年次6月から8月（校内選考）までの流れ

8月	7月	6月
9月2日 就職応募書類発送	1日 就職希望予備調査①配布	1日 就職希望予備調査①配布
9月16日 就職試験開始	5日 就職希望本登録提出	10日 就職希望予備調査②提出
	16日 校内選考	22日 進路・3学年担任会議
	25日 就職三者面談（27日まで）	1日 求人票受け付け開始
	31日 就職希望予備調査③提出	6日 就職希望予備調査②配布
		7日 就職保護者説明会
	20日 応募前職場見学開始	13日 就職希望予備調査②提出
		15日 進路・3学年担任会議
		19日 就職希望予備調査③配布

※学校資料を基に編集部で作成。

変化の激しい社会に飛び込む生徒に伴走

図2 就職希望予備調査②

※学校資料をそのまま掲載。



**主幹教諭
進路指導部代表
井上和也**
いのうえ・かずや
教職歴 29年。同校
に赴任して7年目。

学校概要

- ◎設立 1980 (昭和 55) 年
- ◎形態 全日制／普通科／共学
- ◎生徒数 1 学年約 200 人
- ◎2021 年度進路実績 (現役のみ)
4 年制大は、愛知学院大、愛知工業大、金城学院大、鈴鹿医療科学大、中京大、名古屋商科大などに延べ 21 人が合格。短大・専門学校進学 61 人。就職 105 人。

求人情報のきめ細かな管理や応募前職場見学を踏まえた丁寧な面談など、桑名北高校の就職指導を、資料を交えて詳しく紹介!

VIEWnext ONLINE



「複数回の調査中、生徒の志望は変わってきています。特に、そのきっかけになるのが職場見学です。製造業を希望していたけれども、職場見学をして、機械油の臭いが苦手だと気がつき、職種を変えるという生徒もいます。また、最初は進学と就職とで迷っていた生徒が、面談を通して、進学するよりも早く社会経験を積む方が自分に合っていると考えるようになり、8月に入ってようやく進路を決定したこともありました。社会経験の乏しい高校生ですから、志望が変わることはあたり前です。じっくり話を聞くことが大切です」

同校では、3社以上の職場見学を推奨している。生徒は複数の現場を知り、志望が揺れるからこそ、教師には、冷静に生徒の進路選択に伴走することが求められる。同校では、3年次の5月に就職希望者を対象とした面談を実施し、興味がある職種や就業先に望む条件を就職指導担当の教師が聞き取っているが(図3)、そこで語られた本人の希望に立ち戻りながら、どのような就職をしたのか

を丁寧に確認している。また、進路指導部では求人票を届けに来た企業の採用担当者に2人の教師が応対し、求人票の内容をより詳細に聞き取り(図3)、生徒の志望のマッチングに役立てている。

「就職指導担当の教師にかかる負荷は、7月から一気に大きくなります。しかし、丁寧な面談を通して生徒と企業をつなぎ、また、生徒自身が複数の企業を見学する中で、生徒の自己理解が深まり、就職へのモチベーションも着実に高まります。7月からの約2か月で、私たちが驚くような成長を見せる生徒も少なくありません」

6、7年前は、就職1年後の退職率が20%を超えていた同校だが、今ではその数は1桁台にまで下がり、大手企業からの求人も着実に増加している。井上先生は、そうした就職状況の改善を、「3年間を通じた『総合的な探究の時間』など、複合的な取り組みの結果」と念を押す。確かに、3年次の約2か月間だけできることは多くはないかもしれないが、ミスマッチ防止という点で、3年次7月からの指導は重要だと言えるだろう。

図3 マッチングのための聞き取り項目

生徒への聞き取り

- ・興味がある職種、業種、企業名
- ・休日の希望
- ・入寮希望
- ・体力面の自信の有無
- ・交替勤務の希望
- ・アルバイトの経験
- ・保護者の意見(一致している・していない・相談していない)
- ・身体面での不安
- ・就業場所の希望
- ・通勤方法
- ・将来の転勤

企業への聞き取り

- ・就業場所(県内・県外)
- ・転勤の可能性
- ・交替勤務の有無
- ・作業遂行上不可とする身体条件等
- ・選考方法(重視する項目)
- ・求める人物像
- ・通勤方法
- ・職場見学の実施状況

※学校資料を基に編集部で作成。



チーム 新課程 学年主任

Supported by
ベネッセ文教総研

7月

8月

のポイント

本コーナーはハイスクールオンラインの〈先生SNS〉のコーナーと連動しています。〈先生SNS〉では詳細の情報・資料をご提供しています。また、先生方が直面される課題やその解決方法の共有の場としてもぜひご利用ください。

ハイスクールオンライン 〈先生SNS〉

<https://teacher.benesse.ne.jp/>



※ハイスクールオンラインのIDをお持ちでない先生は、校内でご確認いただくか、WEBサポートデスク0120-350124までご連絡ください。

【受付時間】
月～金 8:00～18:00 / 土 8:00～17:00
(祝日、年末・年始を除く)

ここからお入りください

ほかの先生に相談したい時は⇒相談室へ
使える資料で負担軽減⇒資料室へ



学年団で新課程1期生の姿を見取り、2学期の準備へ

例年、7・8月は、ここまでの振り返りと9月以降の準備の時期と位置づけられていると思います。新課程初年度学年として、特に次の2点について学年団全体で振り返り、必要に応じて今後の指導方針を再検討いただけたらと思います。

●中高接続

- 中学校でこれまでと異なる学習経験を積んできた生徒に対しての初期指導が適切に行えたか(学習方法、ICT活用含む)。
- 1学期の学習内容のつまずきや、中学校の学習内容の学び直しの対応の必要はないか。
- 学び直しが必要な場合、教科間で学習量を共有・調整しながら、夏季休業中の課題や補習等で対応したかどうか。

●「探究」と進路

- 「総合的な探究の時間」(または

「理数探究基礎」「理数探究」の指導計画と進路指導スケジュールを連携させて立案できているか。

コロナ禍で、生徒たちの中学時の体験の幅は非常に狭くなっており、自身の進路や探究していきたいテーマを考える材料の蓄積が不足しているとお聞きします。

そのような中で、「探究」のテーマを考える流れと進路を考える流れを連携させ、効果的かつ効果的に指導する高校が増えていきます。オープンキャンパスやインターンシップ・職場訪問等への積極的な参加を促し、体験・見聞の幅を広げることは、探究したいテーマと自身の進路とをつなげるきっかけとなります。

そのために、7月の面談のテーマとして、「探究」と進路を合わせて扱うことで、生徒への意識づけを行うことができます。

7・8月のチェックポイント

数か月先を見通した新課程初年度学年ならではのポイントです。詳細はハイスクールオンライン〈先生SNS〉をご覧ください。

8月	7月
<p>□ 7月面談の工夫</p> <p>□ 「ベネッセ総合学力テスト」を活用した指導</p> <p>□ 1学期を終えての振り返り</p> <p>□ 夏季休業中の過ごし方</p> <p>□ 夏季休業中の探究のヒント</p> <p>□ 1学期の振り返りと2学期の準備</p> <p>□ 2学期以降の行事の計画</p> <p>□ 教科指導方法の検討</p>	<p>□ 1学期の生徒の姿と面談の工夫ポイント</p> <p>□ 「ベネッセ総合学力テスト」前後の指導(目標、計画、勉強方法)</p> <p>□ 学力の実態把握(答案確認)</p> <p>□ 思考力問題の解答状況を確認</p> <p>□ 1学期を終えて、2学期に向けての振り返り</p> <p>□ 学習履歴の蓄積とフィードバック方法</p> <p>□ ICT端末を活用した、生徒の学習習慣、生活習慣、生徒のモチベーションを上げる実践例</p> <p>□ 2学期以降の探究活動を描く</p> <p>□ オープンキャンパスやインターンシップ・職場訪問を活用した探究など</p> <p>□ 学年団運営の振り返りの指標</p> <p>□ 行事の位置づけと資質・能力の育成の計画</p> <p>□ 「歴史総合」から「日本史探究」、「世界史探究」への展開など</p>

チームの仲間へmessage

新たな学校体制の中で
「探究」と「進路」が繋がる学年にたがわかずふみ
田川和史

大阪府・私立大阪信愛学院高校 第1学年主任

新課程の教科書は、どの教科もICTの活用を前提として作られている面が見られます。本校では1人1台端末を導入していますが、我々の学年が新教科書でのICTの活用法を生み出し、次の学年につなげていくことが大切だと考えています。とは言え、授業でのICT活用の必然性と教師の活用スキルは様々です。学年主任としては、まずは全員ができることを大切に、生徒全員がマナビジョンを活用し、1学年団の担任全員がハイスクールオンラインを活用することから始め、少しずつ活用の幅を広げていくことにしています。

実は本校では、今年度、「共学化」というさらに大きな変化に向き合っています。これまでは近畿圏の自宅から通える大学が生徒たちの主な志望校でした。しかし今後は、男女ともに国公立大学も含めて地域的にも進路の選択肢の幅が広がっていくと考えられます。そこで、「探究」と「進路」の連携を大切にしたいと考えています。本校では数年前から「新しい探究プログラム」に取り組み、軌道に乗ってきたところですが、探究してきたことと生徒自身の進路とが結びついていないのが現状です。共学化と新課程が同時にやってきたことを機に、生徒自身がやりたいことを見つけ、自分の可能性を広げるような「探究+進路」を実現したいと思います。

今回、学年主任を務めるのは2回目ですが、新課程の影響が、いつ、どこで、どのように出てくるのか、なかなか想定困難なところがあります。どの学校の1学年主任の先生も、教師としてのキャリアにかかわらず、同じラインに立っていると言えます。分からないことは分からないと割り切って、校内はもちろん、学校を超えて情報交換・意見交換を行い、この新課程がよりよい生徒の成長となって実を結ぶようにできたらと思います。

〈先生SNS〉

ウェブ
セミナーの
お知らせ全国学力分析と
2学期に役立つ
実践をご紹介します

「チーム新課程学年主任」では、4月2日(土)に、新課程の入り口である「中高接続」、出口である「新課程入試」、そしてそれらをつなぐ「3年間の指導ストーリー」というテーマで

ウェブセミナーを開催しました。学年がスタートしたばかりのお忙しい時期にもかかわらず、多くの先生方にご参加いただきました。ありがとうございました。ご参加いただきました。このウェブセミナーでご紹介した資料は、ハイスクールオンラインの「先生SNS」でご提供しています。ぜひご覧ください。

7月22日(金)には、第2回となる1学年主任先生対象のウェブセミナーを、下記の概要にて実施します。今回のウェブセミナーでは、各校での新課程初年度1学期の振り返りにお役立ていただけるよう、1学

期に実施された「スタディーサポート」や「進路マップ」の全国的な傾向の分析結果をご報告いたします。併せて、高校での実践事例に基づいて1学期を振り返り、2学期以降に生かせるポイントをご紹介します。

「総合的な探究の時間」を始めてみて顕在化した課題、新学習指導要領に基づいた「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改革に関する課題等を感じていらっしゃる学年主任の先生、そして、新課程初年度の指導を継続的に改善していきたいとお考えの先生は、ぜひご出席ください。

第2回

「チーム新課程学年主任ウェブセミナー」

開催日時

2022年7月22日(金) 15:30～17:00
Zoomによるオンライン配信

テーマ

新課程1期生の1学期の姿を可視化し、2学期以降の学年団運営の工夫に生かす

概要

- 1 スタディーサポート、進路マップの全体傾向に見る新課程生の姿と指導
- 2 生徒の可能性を引き出す進路選択の仕かけづくり
- 3 生徒の成長を促す学年運営の振り返り

お申し込み方法

下記のURLを入力いただくか、2次元コードを読み取って、お申し込みフォームを開き、必要事項を入力してください。

<https://benesse-hs.jp/ctypd>



申し込み締め切り

2022年7月15日(金) 15:00



©(株)エス・デー

『VIEW next』のウェブサイト『VIEW next ONLINE』のオープン準備が山場を迎える中、今号の取材で福井県立坂井高校を訪問しました。取材前日、福井駅に到着したのは夜遅く。ご当地グルメを楽しむ余裕はなく、カップ麺をすすり、眠りに就きました。

取材当日は、生徒の挨拶に元気もらい、先生方に伺った思いにあふれた取り組み(P.24～27参照)に感化され、帰路に就きました。「よい記事にするぞ～」と心躍らせながら福井駅に着くと、目の前に何と恐竜が!? 早速調べてみると、福井県は新種化石が多く発見されている恐竜王国で、実物大の恐竜の像やトリックアート壁画を駅に設置しているとのこと。その様は圧巻でした。前日は、恐竜が迎えてくれたことにも気づかないほど余裕がなかった私。心も身体も前を向いていることで、素敵な気づきや学びに出会えると再認識しました。(渡邊)

本誌・ウェブサイトの モニターを募集します

本誌・ウェブサイトに対するご意見やご感想を伺うアンケート等にご協力いただけるモニターを募集します。詳しくは、以下にアクセスしてください。

『VIEW next』高校版 モニター募集

<https://view-next.benesse.jp/view/article10441/>



『VIEW next ONLINE』 モニター募集

<https://view-next.benesse.jp/view/article01254/>



VIEWnext

高校版 2022年8月号

8月19日発行

(予定)

『VIEW next』高校版は
年6回の発行です先生方から
ご意見を
紹介します

Reader's VIEW

2022年4月号へのご意見

生徒を主語にした地域連携に共感

本校では、2年次のインターンシップを地域と連携して行っているが、実施の前後に、協力してくれる地域の方々と情報共有をしているため、4月号の特集の、独立行政法人教職員支援機構の荒瀬克己理事長と編集部との対談で話題に上がった、「学校と地域が互いの連携の目的をしっかりと共有する」ことに共感した。今後も、生徒を主語に地域と連携していきたい。実践事例では、進学実績など、特色が異なる3つの普通科高校が紹介されており、各校の教育課程が参考になった。同じ県の静岡県立静岡東高校は、授業時間を65分間から50分間に変更したり、「オンライン・ハイスクール事業」に取り組んだり、学校全体で意識が共有されていると思った。今後も、3校の取り組みに注目していきたい。

静岡県立下田高校南伊豆分校 谷野公彦

外部への発信が、校内の活気にもつながる

これからは、自校がどのような活動を行っているのか、どのような生徒に入学してもらいたいのかなど、情報を外部に発信し、それが受験生の目に留まるかどうか、校内の活気につながるのだろう。4月号の「指導変革の軌跡」の神奈川県・私立関東学院中学校高校の記事を読み、取り組みを参考にしたいと思った。東京都・私立東京農業大学第一高校 小堀健一

教科横断型授業に大いに刺激を受けた

4月号の「主体的・対話的で深い学び 授業実践」で紹介された埼玉県・私立西武学園文理中学・高校の土屋進一先生の授業に衝撃を受けた。私が知っている教科横断的な授業は、例えば、地理の授業に化学や生物の内容を取り入れるといったものだ。英語科と国語科という異なる教科の教師がチーム・ティーチングで行う授業は初めて知った。そのような授業は、生徒・教師ともに刺激的で楽しく、何より、新学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」に生徒をいざなうことができるのではないかと感じ、大変参考になった。徳島県立小松島高校 牧野浩章

今後の進路指導を検討する際の参考に

総合型選抜や学校推薦型選抜の募集人員が増える中、一般選抜の受験者が中心である本校の進路指導のスケジュールを変えるかどうか、検討している。そうした中で、新コーナーの「マイ・ストーリーを語れる生徒を育てる進路指導」では、具体的な指導事例が紹介されており、参考になった。早速、3学年担当に共有したい。山形県立米沢東高校 高橋英路

就職指導の学校事例に注目したい

新コーナーの「クローズアップ! 就職指導」は、就職指導にフォーカスしている点が新鮮で、興味深い企画だと思った。企業の終身雇用や年功序列型賃金に陰りが見え始めている今、高校卒業後、すぐには進学せず、就職してから進学するといったキャリアプランも選択肢の1つなのかもしれない。ぜひ、次号以降の学校事例も参考にしたい。

静岡県・私立沼津中央高校 後藤松太郎

VIEWnext 編集部からのお知らせ

ウェブサイト VIEWnext ONLINE をぜひご活用ください!

未来を拓く教育情報 & オピニオン
ビューネクスト オンライン

本誌と連動した記事や、ウェブオリジナル記事を続々更新中!

TOPページ →  学校教育情報誌『VIEW next』からご覧いただけます。

本誌連動
記事

「もっと知りたい!」の声にお応えして、誌面でお伝えしきれなかった内容をご紹介します。

これからの
進路指導のための

世の中トレンド解説

今号 P.38 掲載

マイ・ストーリーを語る
生徒を育む進路指導

今号 P.48-49 掲載

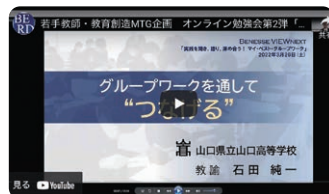
変化の激しい社会に飛び込む生徒に伴走
クローズアップ! 就職指導

今号 P.50-51 掲載

ウェブ
オリジナル記事

ベネッセ主催のセミナーのレポート、タイムリーなテーマの取材記事などをお届けします。

若手教師・教育創造 MTG メンバー企画オンライン勉強会
「マイ・ベスト・グループワーク」
開催レポート & 動画を公開中



山口県立山口高校の石田純一先生、静岡県立小山高校の美那川雄一先生、大分県立大分舞鶴高校の佐藤秀信先生の実践発表の動画を公開中です。

新コーナーオープン! ベネッセ 教育イノベーションセンターが「新たな学び」を発信

TOPページ →  教育イノベーション からご覧いただけます。

変化する「児童生徒の学び」「学校のあり方」を捉え、発展させるために、ベネッセ教育総合研究所 教育イノベーションセンターは、多くの学校や自治体と対話・協働しています。本コーナーでは、その取り組みから見える新たな学びの様子などをお伝えします。

全国の教師がよりよい学びについて語り合う
「トークライブ」レポートを公開中



全国の教師が、児童生徒の学びや、これから求められる指導について自由に語り合うオンライン対話「トークライブ」の様子をお伝えします。

アクセスはこちらから! 2次元コードやLINEからもアクセスできます

URL

<https://view-next.benesse.jp/>

検索ワード

VIEW next ONLINE

検索

2次元コード



スマホやパソコンで
「お気に入り」等の登録を
お願いいたします

LINE 友だち登録をしていただくと、ウェブサイトの記事にダイレクトにアクセスできます。

(友だち登録の方法) 右の2次元コードを読み取っていただくか、LINE アプリの「友だち追加」>「ID 検索」で「@view21」とご入力いただき、追加をお願いいたします。



西川昌弥 先生

Nishikawa Masaya

兵庫県立御影高校

挑戦の中に、
未来につながる
成長がある

担任を受け持つ3年生は、コロナ禍による臨時休業中に入学してきました。当時、全国の学校がそうだったように、本校も学びを止めまいと、あらゆる手を尽くしました。教師が挑戦する姿を見せれば、生徒は前向きになれるのではないかと校内で話し合い、本校で初めての学習動画の作成・配信に踏み切りました。ICT担当の私は、機器の操作や動画の製作などの面で、先生方を支援しました。学校再開後は、各教科で学習内容を精選し、授業の進度を速めました。生徒はそれについてきてくれて、私の担当教科であ

る数学の3年生の授業では今、余裕を持って演習問題に取り組んでいます。

今年度は、昨年度から準備してきた1人1台端末の活用が始まりました。新たな挑戦をしてこそ、本校の発展があることを教師間で共有し、授業改善を推進中です。私が担当する数学科に加え、複数の教科を横断する授業を行う情報科でも、授業を公開して、端末の効果的な活用方法の周知に努めています。

ICTの担当としても忙しくしていますが、常に大切に行っているのは、生徒との日常会話です。日々接しているからこそ気づく小さな変化に寄り添うことで、生徒が次の一歩を踏み出せればと思います。入試までに、いくつかの壁にぶつかるとは思いますが、どんな状況にあっても、授業や部活動に全力で取り組んできた生徒たちです。前向きに力を尽くし、自分の手で未来を切り拓いていってほしいものだと信じています。そして、その経験は、生徒を大きく成長させることでしょ。



生徒より

大変な時ほど、西川先生は生き生きとしています。

急な代講でも、始鈴直前まで授業を楽しそうに考えていました。生徒への助言も、常に前向きです。受験科目ではない数学Ⅲの学習に悩んでいた時、「数学ⅠやⅡの学習にも役立つから頑張れ」と励まされ、今は迷いなく勉強に打ち込んでいます。先生は、数学と情報の授業を担当し、水泳部の顧問もしていて忙しいはずなのに、いつも私たちの横にいて、話を傾けてくれます。入試までに困難に直面しても、先生のように、そうした状況も楽しみたいと思います。

にしかわ・まさや 教職歴14年。同校に赴任して6年目。ICT活用委員会委員長。数学科、情報科。3学年担任。水泳部顧問。日本スポーツ協会競泳コーチ4。

兵庫県立御影高校 全日制／普通科／共学／1学年約320人／2022年度入試合格実績(現役のみ)国立大は北海道大、名古屋大、京都大、大阪大、神戸大、九州大などに112人が合格。私立大は、同志社大、立命館大、関西大、関西学院大などに延べ879人が合格。

お客様サービスセンター

フリーダイヤル 0120-350455 [受付時間] 月～金8:00～18:00/土8:00～17:00(祝日、年末・年始を除く)

株式会社ベネッセコーポレーション岡山本社 〒700-8686 岡山市北区南方3-7-17